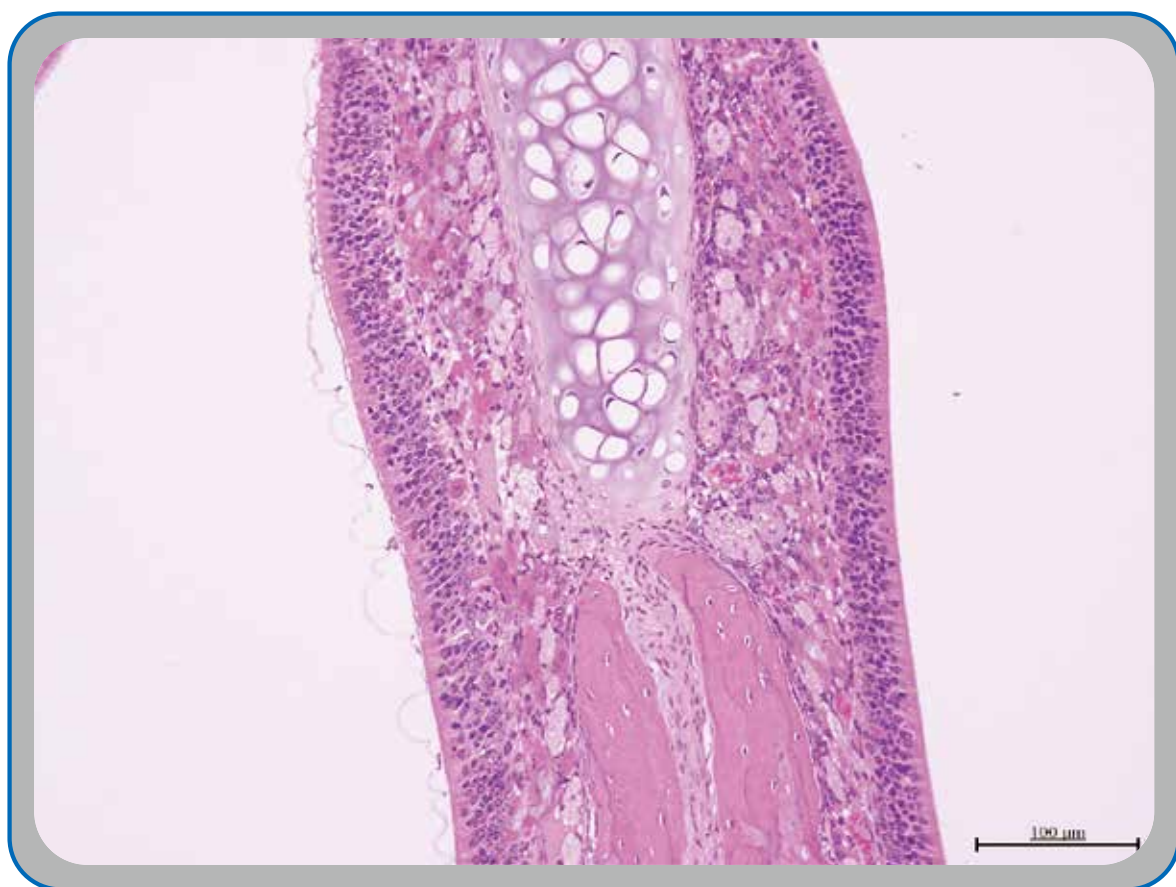


第31号

さくらじま

2017



鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

同門会誌

〔表紙写真の説明〕

病理組織所見：マウス鼻中隔粘膜の好酸球浸潤

目

次

巻頭言	1
会長の挨拶	2
I. 同門会員業績・学会発表	4
II. 教室行事	
1. 共催の講演会	5
2. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 学会報告	6
3. 第19回さくらじまフォーラム	9
4. 第16回「鼻の日」市民講座	10
5. 第10回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座	10
III. 同門会報告	12
IV. 地域医療報告	
学校保健（統計報告）	13
V. 特殊外来通信	
難聴・耳鳴・めまい外来	15
VI. 病理集計	16
VII. 手術実績	17
VIII. 各種科学研究費	18
IX. 業 績	
1. 原 著	19
2. 総 説	20
3. 国内学会発表	21
4. 国際学会発表	28
X. 医局通信	
1. 新入局員紹介	29
2. 医局人事	31

3. 学会報告

- ①第117回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 … 32
- ②第40回日本頭頸部癌学会 第5回アジア頭頸部癌学会 … 34
- ③第16回日本抗加齢医学会総会 …………… 34
- ④第65回日本アレルギー学会学術大会 …………… 35
- ⑤第31回九州連合地方部会学術講演会 …………… 35
- ⑥第4日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会ならびに学術講演会 … 36
- ⑦第29回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会 … 37
- ⑧第55回日本鼻科学会総会・学術講演会 …………… 37
- ⑨第20回日本ワクチン学会学術集会 …………… 37
- ⑩第68回日本気管食道科学会総会・学術講演会 … 38
- ⑪第45回日本免疫学会学術集会 …………… 38
- ⑫第27回日本頭頸部外科学会総会・学術講演会 …………… 39
- ⑬第23回 マクロライド新作用研究会 …………… 39

4. リサーチレポート

- ①アラバマ大学バーミングハム校(UAB) 留学記 … 40
- ②『アラバマ戦記』 …………… 42

5. 関連病院便り

- ①鹿児島医療センター便り …………… 45
- ②鹿児島市立病院便り …………… 47
- ③藤元総合病院便り …………… 48
- ④鹿児島生協病院便り …………… 49
- ⑤天辰病院便り …………… 50

XI. 関連病院と診療日案内 …………… 51

XII. 海外同門会名簿 …………… 54

XIII. 自治医大研修生 …………… 58

同門会会則 …………… 60

編集後記 …………… 62

巻 頭 言

黒 野 祐 一

初鯉のシーズンを迎え、旬の鯉料理を心待ちにしていた矢先、記録的な鯉不漁のニュースが報じられました。またもや温暖化の影響かと思いきや、赤道付近での海外の大型船団の巻き網漁による乱獲が原因らしい。今も世界を賑わせている米国のトランプ大統領の一言で日本の経済体制が揺らいだり、北朝鮮の無謀な核弾頭ミサイルの恐怖にさらされたりと、どうもこのところ我が国は海外の情勢に押されるばかりで鬱々とした空気が漂っているように感じられます。その重苦しさを一気に解き放ってくれたのが、羽生結弦と宇野昌磨両選手の世界フィギュアスケートでの活躍です。若さ溢れるダイナミックでシャープな演技は多くの日本人に大きな感動と勇気そして自信を与えてくれました。

こうした若いエネルギーこそが時代を活性化し変えていくには不可欠です。そして、これまでマンパワー不足によって少々沈滞気味であった当教室にも、今年3月に初期研修を終えた久徳貴之先生、松元隼人先生、伊東小都子先生の3名が入局し、新たな若い息吹が吹き込まれました。折しも来年の日本耳鼻咽喉科学会学術講演会で「上気道炎症の粘膜ワクチンによる制御」と題した宿題報告を担当させていただくことになり、その半年後に日耳鼻専門医講習会の実行委員長、そしてさらにその半年後の2019年5月には大阪で開催される第120回日耳鼻総会・学術講演会の会長を拝命し、まさにかつてない活力が我々の教室に求められています。一地方大学の小さな教室がこれほど重大かつ膨大な事業をこなすのは並大抵のことではありませんが、教室員全員が一丸となって立ち向かって欲しいと願うところです。同門会そして地方部会の先生方には、昨年、第78回耳鼻咽喉科臨床学会の開催に際して多大なご支援をいただいたばかりですが、何卒ご理解のうえ更なるご支援をお願い申し上げます。ちなみに、第78回耳鼻咽喉科臨床学会は351題の一般演題と905名もの参加登録があり、かつてない盛況ぶりで、多くの会員から称賛と感謝のお言葉を頂戴しました。この場を借りて改めて皆様に心より御礼を申し上げます。

さて、今年入局した3名は新専門医制度に定められたプログラムとカリキュラムに従って研修する最初の専攻医となります。これまでの状況からみると比較的多い人員ではありますが、一人ひとりの個性と特性に合わせ、数多くの専攻医を抱えた都市部の施設ではできない細やかで温かみのある指導をしていきたいと考えています。鯉漁も我が国特有の一本釣りでは捕獲するほうが、たとえ効率は悪くとも、一網打尽に捕り尽くす巻き網漁よりもきれいで味わいの深い鯉がとれるそうです。4年後に彼らが立派な耳鼻咽喉科専門医になれるよう、同門会そして地方部会の先生方にもご指導とご鞭撻をお願い致します。(2017年4月25日)

これからの3年


山 本 誠

今年の同門会総会で会長を続投する事になりましたので、引き続き宜しくお願い申し上げます。

黒野教授の任期も後3年になりましたが、中味の濃い3年になりそうです。平成30年度の東京での日耳鼻総会における宿題報告、同年11月の福岡での専門医講習会主催、さらに平成31年度の大阪での日耳鼻総会主催とどれ一つ取っても日耳鼻関連の大きな仕事が待ち受けています。教室としては非常に名誉なことですが、教室の先生方には辛い厳しい年となります。同門会がすべき事は経済面で支える事です。宿題報告や総会主催に2億2千万円ほどが予想される中、3千万円が同門会等の寄付金として予定されておりますので、会員の皆様も強く肝に銘じてほしいと思います。

ところで、今年是世界にとっても大きな変換の年になりそうです。米国大統領にトランプ氏が就任し、オランダ、フランス、ドイツで国政選挙が行なわれ、グローバルズムに対抗するポピュリズムの台頭が予想されるからです。全世界での貧富隔差の拡大、中間層の縮小、移民の増大による職の奪い合い、増税、社会保障費の削減と生活環境が悪化する事により、民主的価値観が崩れ、寛容の精神が減少し、自国だけよければの保護主義で移民の排斥が起っているのです。一方、日本においても、アベノミクス4年目なのに成果は疑問符が付いており、2%の物価上昇も実現できず、以前として国民の消費は増えていません。将来に生活や医療・介護が保障されるなら、国民はもっと消費にお金を回すものと思われませんが、政府は大企業には減税して国民には増税する予定です。生活保障費が削減されるので医療・介護にかかる費用も減り、来年度の診療報酬改定は厳しいものになるでしょう。又、労働人口の減少は切実で、我々の業界でもその対応が必要となります。自院でも総収入は減少しているのに、職員の給与を増やす為に私の給与を削減しました。

先日、5年ぶりにカンボジアのシェムリアップに行ってきました。アンコール・ワットやアンコール・トムなどを含むアンコール遺跡群の観光拠点で、政情の安定に伴って観光客が倍増して活気にあふれており、ホテルや文化施設、病院などの建設ラッシュや道路整備がすすむ一方、遺跡群の拝観料は20ドルから37ドルに増額され、子供達の増加で学校が不足して、午前7時から11時までと午後2時から6時までの2部制となっており、ほとんどは裸足でしたが、新興国の息吹を感じました。住民の月収は都市部で50ドルと世界最貧国の一つとの事でしたが、生きる事、より生活を豊かにする事を求めて懸命に生きており、世界の事など考える余裕などない様でしたが、そこに人間の原点を観



る思いがしました。我々開業医も毎日コツコツと働く事でしか収入を確保できず、株関連の成功者が羨ましくもありますが、日常の診療を積み上げる事で地域医療に少しでも貢献できているという自負が大事だと思います。

先述したように、ここ3年間に日耳鼻行事の主要な3事業がやってきます。医局の先生方には健康に留意しながら頑張ってもらいたいと思います。同門会としては強力なバックアップが欠かせません。医療費削減が予想される不安定な経済状況ですが、会員の先生方の多大なる御協力をお願い申し上げます。

<原著>

内藪明裕：微生物学的検査のピットフォールー的確な感染症診断－迅速検査では何がわかるのか？. 耳鼻感染症・エアロゾル4 (2)：116-120, 2016.

内藪明裕：頭頸部領域の疼痛患者における尿酸値評価の有用性についての検討－初期的検討－. 痛みと漢方26：27-32, 2016.

<解説>

内藪明裕：はなみずに対する漢方治療. JOHNS32：1020-1022, 2016.

<症例報告>

内藪明裕：補中益気湯の多様な有用性について. MEDICAL KAMPO 秋号. 13-14, 2016.

<学会・講演>

第29回東洋医学会鹿児島県地方部会 平成28年2月14日 鶴陵会館
「外来における漢方方剤の即時内服の有用性についての検討」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

第29回疼痛漢方研究会 平成28年7月2日 東京
「頸椎変形に伴う頭頸部痛についての漢方製剤の有用性」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

第3回北薩考加齢研究会 平成28年7月16日 鹿児島市
「難治性疾患に対する分子栄養学的アプローチ」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

第1回UREIM III 平成28年8月6日 東京
「TFLX 耐性インフルエンザ菌による急性中耳炎症例」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

第4回耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会 平成28年9月2日 倉敷市
「思春期急性副鼻腔炎と栄養状態の関係について」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

第32回日本耳鼻咽喉科漢方研究会 平成28年10月22日 東京
「後鼻漏に対する漢方療法～小半夏加茯苓湯と二陳湯の効果～」

内藪明裕 (せんだい耳鼻咽喉科)

1. 共催の講演会

1. 第22回南九州上気道感染症臨床懇話会 平成28年5月12日
 パネルディスカッション
 テーマ「マクロライド療法を見直す」
 パネリスト 原田みずえ（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 吉福 孝介（鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科）
 特別講演：「慢性気道疾患の気道クリーニング」
 東京女子医科大学 内科学第一講座 主任教授 玉置 淳 先生

2. 第41回日耳鼻鹿児島県地方部会総会ならびに学術集会 平成28年6月11日
 一般演題：「小児耳下腺腺房細胞癌の1例」
 井内寛之（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「両側性耳下腺腫瘍の臨床的特徴」
 牧瀬高穂（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
 「鼻出血を契機に発見された頭蓋内病変の2症例」
 高木 実（鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科）
 「上顎癌に対する化学放射線併用療法中に Stevens-Johnson syndrome
 を発症した症例」
 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎勉, 松下茂人
 （鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科, 皮膚腫瘍科・皮膚科）
 「タミフル耐性インフルエンザウィルスを検出した症例に関する検討」
 福岩達哉, 岩元由佳, 御供田陸代
 （ふくいわ耳鼻咽喉科クリニック・鹿児島県環境保健センター微生物部）
 耳鼻咽喉科領域講習：「耳鼻咽喉科薬理学講習－薬剤内耳毒性の基礎と臨床－」
 九州大学大学院医学研究院 耳鼻咽喉科分野 教授 中川 尚志 先生

3. 第15回鹿児島めまい研究会 平成28年7月21日（鹿児島市）
 一般演題：「当科における聴神経腫瘍106例の検討」
 時村 洋, 山畑仁志, 菅田真生, 八代一孝, 田実謙一郎, 有田和徳
 「上方向性眼振を特徴とした視神経脊髄炎関連疾患の一例」
 兒玉憲人, 小迫拓矢, 稲津真穂人, 永野大河, 石戸秀明, 堂園美香

湯地美佳, 武井 藍, 篠原和也, 崎山佑介, 牧 美充, 中村友紀,
橋口昭大, 高嶋 博

「発症早期の温度眼振反応の推移を評価しえた前庭神経炎の一例」

宮之原郁代, 原田みずえ, 永野広海, 黒野祐一

特別講演：「明るい超高齢社会のための老年医学」

大阪大学大学院医学系研究科 老年・総合内科学

教授 樂木 宏美 先生

4. 第110回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成28年10月20日

専門医共通講習会

感染症対策講習会

「感染症対策の基本－標準予防策・ワクチン・抗菌薬適正使用－」

鹿児島大学医学部 感染防御学 微生物学 教授 西 順一郎 先生

耳鼻咽喉科領域講習

「アレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法講習会

－舌下免疫療法の基礎と臨床－」

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 大堀 純一郎 先生

鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 宮之原 郁代 先生

5. 第111回鹿児島県耳鼻咽喉科学術集会 平成29年2月4日

一般演題：「当科におけるアレルギー性鼻炎の外科的治療の検討」

馬越 瑞夫 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「診断に苦慮した頸部腫瘍症例の検討」

原田 みずえ 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

教育講演：「アレルギー性鼻炎の薬物治療」

川島 雅樹 先生（鹿児島大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

特別講演：「鼻腔に発生する致死性肉芽腫の謎を解く」

旭川医科大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 教授 原測 保明 先生

2. 第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会 学会報告

2016年6月23日（木）・24日（金）の両日、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学の黒野祐一教授を会長に第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会を開催致しました。会場は雄大なさくらじまを間近に眺めることができる「城山観

光ホテル」で約1000人の学会員にご参加頂きました。

耳鼻咽喉科臨床学会は、大正15年に第1回が京都で開催され、今回で78回目を数える耳鼻咽喉科のなかでも歴史ある全国学会の一つです。

学会の醍醐味の一つとして、最先端の研究や治療法などに触れることができるということが挙げられます。また次々と新たな医療技術が開発されている昨今、耳鼻咽喉科診療も大きな転換期を迎えています。そこで今回の学会テーマを、明治維新を成し遂げた鹿児島での開催ということもあり、「チェスト！ 耳鼻咽喉科“医新”」としました。

テーマに沿って、シンポジウムは「耳鼻咽喉科医療最前線」と題して、最先端の耳鼻咽喉科診療を紹介し、パネルディスカッションでは「再発例・難治例への対応」をテーマに、耳鼻咽喉科領域の難治性病態の現状を明らかにし、それをどのようにして克服するのか、“医新”のための解決策を座長の先生や参加された先生方に熱く議論していただきました。

また臨床セミナーでは「Current Topics in ENT (ENT: Ear Nose Throat)」をテーマに、最近耳鼻咽喉科領域で話題となっている疾患である、ANCA 関連好酸球性中耳炎、Auditory Neuropathy、上半規管裂隙症候群、好酸球性副鼻腔炎、IgG4関連疾患、HPV陽性中咽頭癌の6つについて、それぞれの第一人者である先生方に講演していただきました。教育セミナーでは、「高齢者の診療におけるワンポイントアドバイス」をテーマにしました。日本は超高齢社会に突入しており、多くの高齢者が訴えるものの、対応や治療に苦勞する、めまい、鼻漏・後鼻漏、咽喉頭異常感、嗅覚・味覚障害の診断・治療のコツについて、この領域に造詣が深い先生方にご講演頂きました。

共催セミナーでは、「明日からの診療に役立つ講演」をテーマに7つを企画しました。セミナーはランチ時ということもあり、準備するお弁当についても鹿児島の特徴を出す



The 78th Annual Meeting of the Society of Practical Otolaryngology
第78回
耳鼻咽喉科臨床学会
総会・学術講演会

チェスト！ 耳鼻咽喉科“医新”

2016年
6月23日(木)～24日(金)

Official Site:
<http://www.porl78.umin.jp>

開催地: 城山観光ホテル
 〒890-8506 鹿児島県鹿児島市新町4-1番1号

黒野祐一
 鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸外科

鹿児島大学 耳鼻咽喉科・頭頸外科
 〒890-8504 鹿児島県鹿児島市中央3丁目35番1号
 TEL: 099-275-5418 FAX: 099-264-8206
 E-Mail: porl78@umin.jp

ため、「黒豚トンカツ弁当」、「黒牛ローストビーフ弁当」、「黒鶏中華風から揚げ弁当」を独自に企画し、食材から厳選しました。県外から参加の先生方に鹿児島の味覚を存分に味わって頂けたのではないかと思います。

そして参加された全国の先生方に、より鹿児島をじっくりと楽しんで頂くため、特別講演に鹿児島大学農学部焼酎・発酵学教育センター客員教授の鮫島吉廣先生をお招きし、鹿児島本格焼酎の歴史と美味しくて正しい焼酎の飲み方について、文化的そして科学的に解説していただきました。その甲斐あってか、懇親会ではこの日のために取り揃えた森伊蔵や村尾、魔王の他にも地元でしか味わえない限定焼酎も好評で、学会員の方々にはじっくりとご堪能して頂けたのではないかと思います。

さらに、特別ゲストとしてクリスマスシーズンの定番曲である「サイレント・イヴ」のヒットで知られる鹿児島出身の辛島美登里さんをお招きし、「女性のキャリアアップ」について、東京北医療センター耳鼻咽喉科 科長の飯野ゆき子先生との対談という形式でトークショーを開催しました。その後の懇親会では生演奏でのコンサートを行って頂きました。素敵な歌だけでなく、女性としていつまでも輝いている姿がとても印象的でした。

懇親会では病院長の熊本一朗先生にお越し頂き、ご挨拶頂きました。懇親会翌日にあたる学会2日目には、本学会恒例となっている早朝ジョギングを企画しました。城山観光ホテルでの開催ということもあり、城山展望所から西郷隆盛像を含む鹿児島ゆかりの史跡をめぐる短距離のコースを鹿児島の風景や歴史を感じてもらいながら、ゆっくりと走って頂けたと思います。



梅雨時期ということもあって、6月の鹿児島は大変蒸し暑いのですが、幸い学会期間中は好天に恵まれました。参加者に少しでも学会中涼しく過ごしていただけるように学会中はドレスコードをクールビズにして、参加者に学会Tシャツを配布し、公式ウェアとして発表のときにも着用できるようにしました。また休憩コーナーにはかき氷の「南国白くま」を準備して、鹿児島の涼を感じて頂きました。今回の学会では全国の会員の方々より、一般口演、ポスター演題とともに過去最高の351演題ものご登録を頂き、2日間にわたって活発な議論をして頂きました。

また学会期間中にさらに学会を盛り上げるため、鹿児島大学公式のゆるキャラである「さつつん」にも飛び入り参加してもらいました。参加者の方々にはいっしょに写真撮影して頂いたり大変好評でした。

今回の学会を成功裡に終えることができたのも、座長や司会の労をお引き受け頂いた

先生方、またご支援いただいた同門会の先生方や企業の方々、そして会員の方々のおかげであります。この場をお借りしまして感謝申し上げます。（文責：宮下圭一）



3. 第19回さくらじまフォーラム

本フォーラムは、平成28年12月8日にサンロイヤルホテルで開催された。本年は一般演題として、「当院における鼻噴霧用ステロイド薬の使用状況」を医療法人紀 かもいけ耳鼻咽喉科クリニックの田中紀充先生に、「水稻帯状疱疹ウイルスによる嚥下障害例」を鹿児島生協病院耳鼻咽喉科の積山幸祐先生に、「気管切開術後総部感染に起因してIgA 血管炎を発症した症例」を鹿児島医療センター 耳鼻咽喉科の吉福先生に、「激

しい頭痛を主訴とし診断に苦慮した症例」を鹿児島市立病院 耳鼻咽喉科の高木 実先生に発表いただいた。いずれの発表も日常診療で苦慮する点に注目し、実地臨床に即した演題で非常にためになった。特別講演では、「重症急性上気道感染症の診療における留意点」として当科の黒野祐一教授が講演された。追加発言として当科から永野先生が留学している留学先の藤橋浩太郎教授に上気道感染症制御のための粘膜免疫について追加発言があった。急性上気道感染症、粘膜免疫ともに当科のメインテーマでもある。いずれは粘膜免疫ワクチンにてこれら急性上気道感染症が制御できるようになる時代が来るのかもしれない。今後我々はさらに研究を進めなければならないと鼓舞された講演であった。(文責：大堀純一郎)

4. 第16回「鼻の日」市民講座

日 時：平成28年8月6日土曜日

場 所：プラザ N4階ヴァリエホール (鹿児島市武1-4-2)

講演内容

司会 鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 永野広海先生

①アレルギー性鼻炎に対する新しい治療法 ～舌下免疫療法について～

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 地村友宏先生

②たかが鼻出血。されど鼻出血。～原因と対処法～

鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 原田みずえ先生

上記のテーマについて各先生方がわかりやすく解説され、盛会であった。

(文責：川島雅樹)

5. 第10回耳の日ならびにアレルギー週間公開講座

日時：平成29年3月3日(土) 13:00～14:10

場所：鹿児島市勤労者交流センター

講演内容

1) 補聴器と人工内耳

井内寛之先生(鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学)

2) めまい・ふらつきへの対応

川島雅樹先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

3) アレルギー性鼻炎の最近の話題 –セルフケアから舌下免疫療法まで–

地村友宏先生（鹿児島大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学）

開催後のアンケート結果

参加人数42名 回収数 38枚

年齢構成

20代	1名	30代	2名	40代	1名	50代	3名
60代	11名	70代	13名	80代	6名	無回答	1名

1. どのようにして、今回の講座について知りましたか。

新聞 5名 病院内のポスター 6名 友人・知人からの紹介 5名
 案内のハガキ 20名 その他（補聴器店のポスター 2名）

2. どの講演を目的に受講しましたか。※重複回答あり

補聴器・人工内耳 17名 めまい・ふらつき 17名 アレルギー性鼻炎 21名

3. 講演を聴こうと思ったきっかけは？

聞こえに不自由を感じているから 12名 自分の健康管理 23名
 家族の病気を心配して 8名

4. 講演内容はいかがでしたか。

わかりやすかった 23名 ややわかりにくい 5名 無回答 10名

5. 講演時間、日程についてお聞きします。

講演時間：もっと長く 5名 ちょうどよい 25名 無回答 8名
 日 程：土曜午前が良い 5名 土曜午後が良い 25名
 日曜午後が良い 3名 いつでもよい 1名

6. これまでに参加されたことはありますか？

はじめて 17名 2回目 3名 3回目以上 17名

（文責：宮之原郁代）

平成29年1月14日、鹿児島大学耳鼻咽喉科頭頸部外科同門会が、城山観光ホテルで開催された。同門会総会の参加者は37名と少な目であったが、平成28年の決算と平成29年の予算案、事業予定について総会で承認が得られた。本年は役員改選の年であったが、現行役員が引き続き3年の任期を継続することとなった。

学術講演会では、耳鼻咽喉科領域講習として、「経鼻インフルエンザの現状と将来展望」として大堀が講演し、国立感染症研究所の浅沼秀樹先生に追加発言をいただいた。近年の季節性インフルエンザワクチンの現状と今後のワクチン開発についてわかりやすく解説いただいた。また、熊本一朗病院長に専門医共通講習として「診療ガイドラインと医療安全」と題して御講演いただいた。近年の医療訴訟の状況とそれに対する対策とガイドラインの使用法と解釈について詳細に講演いただき、医療訴訟を避けるために日常からの対策とミスを防ぐシステム作りが大切であることを痛感した。このことは、病院に勤める先生だけでなく、開業されている先生方にも非常に重要な点であると感じられた。

懇親会では、同門会の新年会の様相を呈し、日ごろ接することの少ない先生方とも盛んに交流が出来非常に有意義な懇親会であった。

来年は1月8日を予定しており、ぜひ多数の同門会員、地方部会会員に参加していただきたくこの場をかりてお願いしたい。
(文責：大堀純一郎)



鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会 平成29年1月14日 於：城山観光ホテル

学校保健（統計報告）

平成28年4月から6月にかけて、当科において鹿児島県下の以下の耳鼻咽喉科学校検診を行った。

【対象地域】

鹿児島市，阿久根市，垂水市，西之表市，屋久島町，松山地区（志布志市），財部地域（曾於市），大崎町，輝北地区（鹿屋市）

【受診者数】

小学生 3,242名，中学生 1,719名

【対象疾患】

耳垢塞栓，滲出性中耳炎，慢性中耳炎，鼻中隔湾曲症，鼻アレルギー，慢性鼻炎，慢性副鼻腔炎，扁桃肥大の9疾患

【結果】

疾患別有病率は、ここ数年の傾向どおり鼻アレルギーが圧倒的に多く、耳垢塞栓，慢性副鼻腔炎の順であった（図1）。学年別耳疾患有病率では低学年で耳垢塞栓が多かった（図2）。学年別鼻疾患有病率では、学年を通して鼻アレルギーの有病率が5%を超えていて、慢性副鼻腔炎は低学年ほど多い傾向を示した（図3）。学年別扁桃疾患有病率は、一定の傾向はみられなかった（図4）。（文責：伊東小都子）

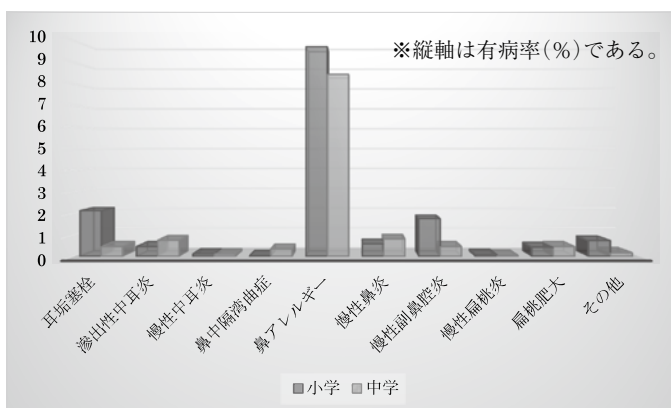


図1. 疾患別有病率

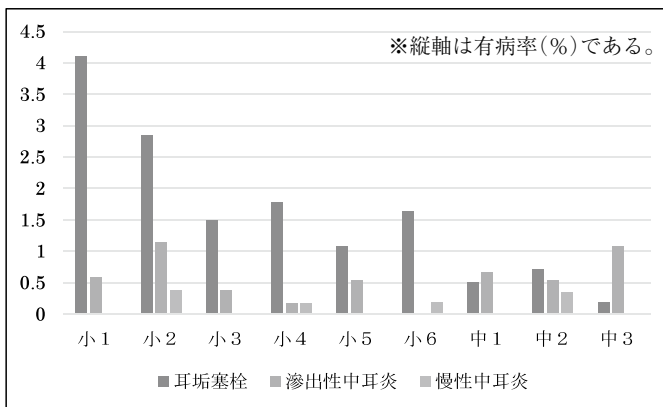


図2. 学年別耳疾患有病率

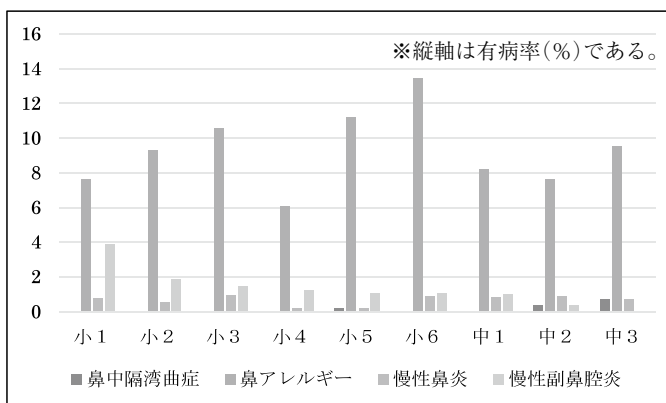


図3. 学年別鼻疾患有病率

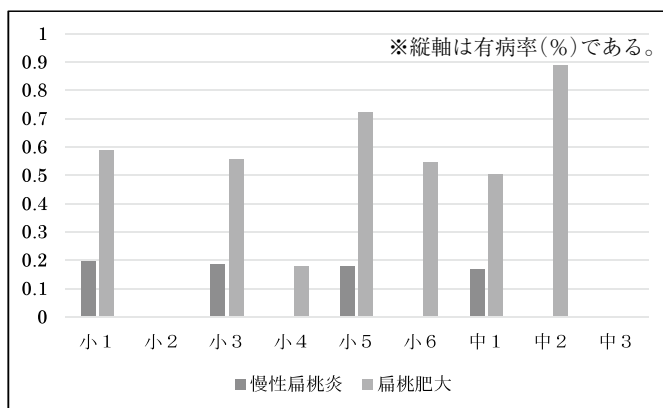


図4. 学年別扁桃疾患有病率

難聴・耳鳴・めまい外来

宮之原 郁 代

いつも貴重な症例をご紹介頂きありがとうございます。

「新生児から高齢者まで幅広い年齢層の聴覚，平衡覚に関する病態について柔軟に対処し，個々の症例に応じた治療法の選択と QOL の改善」を基本理念に研鑽を積んでいます。具体的には，小児難聴の精査，難聴の遺伝子診断，人工内耳候補者選定，術後の(リ)ハビリテーション，補聴器フィッティング，TRT 療法などを中心に診療しております。

小児難聴に関しては，例年と大きな変化はなく，ハイリスク症例の難聴精査の依頼と新スク後の精査目的で来院する患者さんが約30～40例/年で推移しています。聴力レベルの評価はもとより，原因検索として遺伝子診断，CT/MRI による画像診断を組み合わせで行っています。また，最近は化学療法の前後の聴覚評価目的で紹介される患児も増えています。

難聴の遺伝子診断については，小児のみならず成人の難聴症例についての問い合わせや精査依頼が増えてきています。とくに，自身の難聴の原因診断を求め，遺伝子診断を希望され来院される症例が増加傾向です。「難聴と遺伝」の関連が，認知されてきたことに加え，遺伝子診断そのものが特殊なものでなく，より身近な検査の一つとして受け入れられてきていることを示す結果かもしれません。2015年に難病に指定された若年発症型両側感音難聴に関する問い合わせも引き続きみられました。病歴聴取，家系図の作成，さらに検査前後のカウンセリングと，それぞれの症例に応じて，時間をかけて対応しております。とくに，検査前のカウンセリングは重要で，患者さん自身に，検査の意義，目的，メリット，デメリットなど十分理解して頂く必要がありますが，これには医師のカウンセリングスキルも重要なファクターです。したがって，私自身は学会や研究会などでロールプレイプログラムに参加し，よりよいカウンセリングができるようスキルアップに努めているところです。ABR は，78件で，およそ70%は乳幼児・小児難聴の診断目的で行っています。心因性難聴のご紹介も多く頂いております。それ以外には身体障害者診断書・意見書作成に関連した成人難聴症例などが含まれています。めまい症例については，92件の前庭機能検査を行いました。引き続き，聴神経腫瘍の症例を多く診察しています。前年は高齢者のめまい症例が多くみられましたが，本年度は約70%が40～60代でした。精査ののちは前検カンファレンスを経て，情報提供とともに紹介医へお返ししますので引き続き連携をよろしくお願いします。

補聴器外来（補聴器フィッティング）は新患17名，延べ31名，耳鳴外来（TRT 療法）は新患13名，延べ71名でした。

VI. 病理集計

病理集計

2016.4月～2017.3月

入院
外来
他院（対診）
総施行件数

件数
351
311
16
678

部位	悪性	件	良性	件
外耳	SCC	2	Mixed apocrine tumor	1
			apocrine hydrocystoma	1
鼻腔	olfactoryneuroblastoma	1	inverted papilloma	4
	malignant lymphoma(DLBCL)	1	pyogenic granuloma	2
	MALT lymphoma	1		
	Extranodal NK/Tcell lymphoma,nasal type	1		
上顎洞	endocrine cell carcinoma	1		
	malignant lymphoma (DLBCL)	1		
篩骨洞	malignant melanoma	1	inverted papilloma	1
蝶形骨洞			giant cell tumor	1
眼窩	adenoid cystic carcinoma	1		
	MALT lymphoma	1		
舌	SCC	8		
口腔底	SCC	4		
臼後部	SCC	3		
歯肉	SCC	2	squamous papilloma	1
硬口蓋	SCC	1		
上咽頭	SCC	3		
	methotrexate associated lymphoproliferative disorders(MTX-LPD)	1		
中咽頭	SCC	13	squamous papilloma	3
	malignant lymphoma	2		
	malignant lymphoma(DLBCL)	1		
	mantle cell lymphoma	1		
下咽頭	SCC	43	squamous papilloma	1
喉頭	SCC	23	squamous papilloma	5
耳下腺	mucoepidermoid carcinoma	1	Warthin tumor	7
	adenocarcinoma	1	pleomorphic adenoma	4
	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	basal cell adenoma	1
	metastasis of spadenocarcinoma	1		
顎下腺	carcinoma ex pleomorphic adenoma	1	pleomorphic adenoma	1
舌下腺	epithelial-myoepithelial carcinoma ex pleomorphic adenoma	1		
甲状腺	papillary carcinoma	5	follicular adeoma	2
頸部	Ewing sarcoma	1	schwanoma	2
			mature cystic teratoma	1
頸部リンパ節	malignant lymphoma(DLBCL)	4		
	classical Hodgkin's lymphoma	2		
	malignant lymphoma,Bcell type	1		
	Burkitt lymphoma	1		
	ATL	1		
	metastasis of adenoid cystic carcinoma	1		
原発不明	SCC	1		

VII. 手術実績

平成28年度 手術内訳と件数 (平成28年4月1日～平成29年3月31日)

全身麻酔	325件
局所麻酔	47件
合計	372件

	術式	件数	術式	件数	
耳	鼓室形成術	12	喉頭 喉頭微細手術 (LMS)	26	
	鼓膜チューブ留置術	3	(乳頭腫6, 喉頭蓋嚢胞5, ポリープ3, 肉芽腫3, その他9)		
	外耳道腫瘍摘出術	2	喉頭悪性腫瘍切除術 (全摘5, LMS2)	7	
	外耳道形成術	2	喉頭直達鏡検査	4	
	外耳道真珠腫除去術	2	甲状軟骨形成術	5	
	乳突洞削開術	1	甲状腺 甲状腺良性腫瘍切除術 (部分切除)	6	
	鼓膜形成術 (湯浅式)	1	甲状腺悪性腫瘍切除術 (部分切除)	5	
	あぶみ骨手術	1	唾液腺 耳下腺良性腫瘍切除術 (浅葉切除)	17	
	先天性耳瘻管摘出術	1	顎下腺摘出術 (唾石4, 良性3, 悪性1)	8	
	顔面神経減荷術	1	耳下腺悪性腫瘍切除術 (全摘)	2	
	鼓室試験開放	1	顎下腺唾石摘出術 (口内法)	2	
	鼻	鼻内視鏡下副鼻腔手術 (ESS)	63	がま腫摘出術	1
鼻中隔矯正術		8	舌下腺摘出術	1	
術後性上顎嚢胞開放術		6	シアロスコピー検査	1	
後鼻孔ポリープ切除術		3	小唾液腺摘出術	1	
鼻粘膜焼灼術		3	頸部 頸部郭清術	36	
下甲介粘膜下切除術		2	気管切開術	22	
副鼻腔悪性腫瘍切除術		2	リンパ節摘出術	12	
上顎悪性腫瘍摘出術 (部切)		1	頸部腫瘍摘出術	4	
上顎良性腫瘍摘出術		1	深頸部膿瘍切開排膿術	3	
頬骨骨折整復術		1	正中顎嚢胞摘出術	1	
眼窩底骨折整復術		1	気管孔開大術	1	
後鼻神経切断術		1	気管孔形成術	1	
口腔		舌悪性腫瘍切除術 (舌半切)	3	異物 咽頭異物摘出術 (魚骨3, 義歯1)	4
		舌悪性腫瘍切除術 (舌部切)	3	食道異物摘出術 (魚骨1, PTP1)	2
	口腔底悪性腫瘍切除術	3	鼻腔異物摘出術 (ビーズ)	1	
	白後部悪性腫瘍切除術	1	頬部皮下異物の術 (木片)	1	
	口蓋腫瘍切除術	1	気管支異物摘出術 (ビニール片)	1	
	舌皮弁減量術	1	再建 遊離空腸再建術	10	
	ガンマ腫摘出術	1	前腕皮弁再建術	3	
	咽頭	両側口蓋扁桃摘出術	64	大胸筋皮弁再建術	2
食道直達鏡検査		20	DP皮弁再建術	1	
下咽頭悪性腫瘍切除術 (ESD9, 咽喉食摘10)		19	その他 デブリードマン	1	
アデノイド切除術		14	合計	451	
中咽頭悪性腫瘍切除術 (うち TOVS 4)		7			
軟口蓋形成術		1			
咽後膿瘍切開排膿術		1			
咽頭皮膚瘻閉鎖術		1			
上咽頭生検		1			

(平成29年3月現在)

文部科学省科学研究費

基盤研究 (C)

ホスホリルコリンの二相作用を応用した新たな粘膜ワクチンの開発

研究代表者 黒野 祐一

基盤研究 (C)

粘膜免疫応答誘導型経皮ワクチンの開発

研究代表者 永野 広海

若手研究 (B)

IgA 腎症における口蓋扁桃の免疫応答と新たなバイオマーカーの開発

研究代表者 地村 友宏

日本医療研究開発機構 (AMED)

粘膜免疫誘導型インフルエンザワクチンの開発に向けた研究

研究開発代表者 長谷川秀樹 (国立感染症研究所)

研究開発分担者 黒野 祐一 大堀純一郎

1. 原 著

- (1) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉
頬部に発生した小唾液腺由来多形腺腫の1症例
頭頸部外科25(2) : 223-226, 2015
- (2) 原田みずえ, 大堀純一郎, 黒野祐一
Weekly カルボプラチン併用化学放射線療法により汎血球減少に陥った上顎洞癌例
耳鼻臨床109(4) : 269-274, 2016
- (3) 黒野祐一, 宮下圭一, 馬越瑞夫, 川島雅樹, 永野広海, 原田みずえ, 大堀純一郎
扁桃周囲膿瘍におけるガレノキサシンの組織移行性に関する検討
日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会会誌(4)2 : 102-106, 2016
- (4) 永野広海, 黒野祐一
第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会・学術講演会シンポジウム
ホスホリルコリンを用いたワクチン開発の展望
耳鼻臨床109(12) : 819-829, 2016
- (5) 吉福孝介, 松崎 勉, 西元謙吾, 朝隈真一郎, 大野文夫
菊池病の2例
耳鼻と臨床62(6) : 218-224, 2016
- (6) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 松下茂人
気管切開術後創部感染に起因してIgA 血管炎を発症した症例
日本耳鼻咽喉科学会会報 119 : 1397-1403, 2016
- (7) 吉福孝介, 松崎勉, 西元謙吾
血痰を主訴とした胸部大動脈瘤の1例
耳鼻と臨床 62(4) : 141-146, 2016

- (8) 川俣洋生, 湊本康則, 林 稔展, 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 平山俊一
腫瘍浸出液に対する Mohs 亜鉛華軟膏の有用性
医療薬学 42(1) : 7-13, 2016
- (9) 大堀純一郎, 宮下圭一, 黒野祐一
頭部・顔面非メラノーマ皮膚悪性腫瘍における耳下腺リンパ節郭清の検討
耳鼻臨床 110(1) : 31-34, 2017

2. 総 説

- (1) 吉福孝介
特集・耳鼻咽喉科外来における救急医療
呼吸困難・嚥下困難（急性喉頭蓋炎および扁桃周囲膿瘍（下極型））の診断と治療
MB ENT 154 : 43-50, 2013
- (2) 吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉, 大園ゆかり
特集・耳鼻咽喉科薬物療法2015
耳鼻咽喉科の疾患・症候別薬物治療 喉頭急性炎症
JOHNS 31(9) : 1324-1327, 2015
- (3) 黒野祐一
耳鼻咽喉科処方マニュアル 3. 耳・鼻・喉の感染症 / 炎症 <扁桃・喉頭>
扁桃炎・扁桃周囲膿瘍
耳鼻咽喉科・頭頸部外科88(5)増刊号 : 140-143, 2016
- (4) 黒野祐一
生涯教育シリーズ90 アレルギー疾患のすべて
アレルギー疾患の治療総論 アレルギーの予防
日本医師会雑誌 145(1)112-113, 2016
- (5) 宮之原郁代
特集 アレルギー性鼻炎－新たな研究と治療の展開－
アレルギー性鼻炎治療の新たな展開 アドヒアランス向上のために
JOHNS 32(6) : 725-728, 2016

- (6) 吉福孝介
他科への手紙：耳鼻咽喉科→麻酔科
日本医事新報 4803, 2016
- (7) 黒野祐一
ガイドラインのワンポイント解説
鼻アレルギー診療ガイドライン－通年性鼻炎と花粉症－2016年版（改訂第8版）
－抗ヒスタミン薬使用のポイント－
アレルギー 65(8)：982-986, 2016
- (8) 黒野祐一，大堀純一郎
扁桃周囲膿瘍の病態と治療
アレルギー・免疫24(1)：109-116, 2017
- (9) 黒野祐一
アレルギー性鼻炎発症・治療のメカニズム
7. 通年性鼻炎・花粉症の重症度に応じた治療法の選択と効果
Progress in Medicine 36(11)：41(1491)-45(1495), 2016
- (10) 黒野祐一
日常診療に潜む怖い耳鼻咽喉科疾患
－急速に進行し窒息に至る急性喉頭蓋炎の臨床－
臨床と研究 94(1)：129-133, 2017

3. 国内学会発表

(1) 特別講演

九州大学医学部臨床講義 平成28年4月11日（福岡市）

「上気道の免疫・アレルギー疾患」

黒野祐一

第57回宮崎県耳鼻咽喉科懇話会 平成28年4月14日（宮崎市）

「アレルギー性鼻炎の病態と治療－舌下免疫療法の有用性－」

黒野祐一

第42回日本耳鼻咽喉科学会滋賀県地方部会学術講演会・総会
及び滋賀県耳鼻咽喉科専門医会総会 平成28年4月17日（草津市）
「鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版 改訂のポイント」

黒野祐一

鼻アレルギー Update 2016 in 北海道 平成28年4月23日（札幌市）
「アレルギー性鼻炎の診療における留意点」

黒野祐一

第8回 Airway Club Tokyo 平成28年6月2日（東京都）
「扁桃に関する最新の知見」

黒野祐一

大分大学医学部臨床講義 平成28年6月27日（大分市）
「口腔・咽頭癌」

黒野祐一

熊本大学医学部4年生講義 平成28年6月29日（熊本市）
「上気道感染・アレルギーと粘膜免疫」

黒野祐一

第27回阪大耳鼻科開業医会 平成28年7月23日（大阪市）
「鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版 -改訂のポイント-」

黒野祐一

第7回湘南アレルギー研究会 平成28年8月6日（藤沢市）
「鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版 -改訂のポイント-」

黒野祐一

都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会 平成28年9月29日（都城市）
「アレルギー性鼻炎の病態と治療 - 舌下免疫療法の有用性 -」

黒野祐一

第3回耳鼻咽喉科感染症懇話会 in 港区・中央区 平成28年11月16日（東京都）

「急性重症上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

兵庫耳鼻咽喉科セミナー 平成28年12月4日（西宮市）

「扁桃周囲膿瘍の病態と治療」

黒野祐一

第62回岡山耳鼻咽喉科フォーラム 平成29年1月12日（岡山市）

「鼻アレルギー診療ガイドライン2016年版 -改訂のポイント-」

黒野祐一

第25回九州アレルギー講習会 -2017 福岡- 平成29年2月18日（福岡市）

「耳鼻咽喉科のアレルギー疾患における最近の話題-アレルギー性鼻炎と副鼻腔炎-」

黒野祐一

神奈川県アレルギー性鼻炎フォーラム 平成29年2月22日（横浜市）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点と最新の話題」

黒野祐一

Allergy Symposium in Fukuoka 平成29年3月3日（福岡市）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点と最新の話題」

黒野祐一

アレルギーフォーラム in 宮城 平成29年3月9日（仙台市）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点と最新の話題」

黒野祐一

第115回日本耳鼻咽喉科学会群馬県地方部会学術講演会 平成29年3月19日（前橋市）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点」

黒野祐一

アレルギー治療 Symposium 2017 平成29年3月31日（さいたま市）

「アレルギー性鼻炎の薬物療法における留意点と最新の話題」

黒野祐一

(2) シンポジウム

第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成28年6月23日～24日

「耳鼻咽喉科医療最前線」－ホスホリルコリンを用いたワクチン開発の展望－

永野広海

第29回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

平成28年9月8日～9日（松江市）

「粘膜免疫の臨床応用－鼻咽腔，口腔，腸管の粘膜を利用した炎症性疾患の制御機構の理解－」

経鼻粘膜ワクチンの開発

大堀純一郎

(3) パネルディスカッション

第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成28年6月23日～24日

「再発例・難治例への対応」

大堀純一郎

(4) セミナー

第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成28年6月23日～24日

「扁桃周囲膿瘍の病態と治療」

黒野祐一

第4回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

平成28年9月2日～3日（倉敷市）

「重症急性上気道感染症の診療における留意点」

黒野祐一

第29回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

平成28年9月8日～9日（松江市）

「扁桃に関する最近の話題」

黒野祐一

(5) 一般

第35回気道分泌研究会 平成28年4月23日(津市)

「耳介経皮免疫によるホスホリルコリン特異的粘膜免疫応答の誘導」

永野広海, 黒野祐一

第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会

平成28年5月18日～21日(名古屋市)

「オンラインシステムを用いた2015年スギ花粉症患者の受療動向とQOL調査」

宮之原郁代, 原田みずえ, 地村友宏, 永野広海, 牧瀬高穂, 黒野祐一

「血痰を主訴に当科を受診した胸部大動脈瘤症例」

吉福孝介, 西元謙吾, 松崎 勉

「急性喉頭蓋炎124例の検討—扁桃周囲膿瘍合併例の対応—」

大堀純一郎, 宮下圭一, 原田みずえ, 永野広海, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫, 井内寛之
地村友宏, 宮之原郁代, 黒野祐一

「孤立性蝶形骨洞疾患48例の検討」

宮下圭一, 黒野祐一

「耳介経皮免疫によるホスホリルコリン特異的粘膜免疫応答の誘導」

永野広海, 地村友宏, 宮下圭一, 大堀純一郎, 黒野祐一

「両側性に発生した耳下腺腫瘍の臨床的特徴」

牧瀬高穂, 黒野祐一

第40回日本頭頸部癌学会 平成28年6月9日～10日(さいたま市)

「局所進行頭頸部癌に対するTPS療法の検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 松崎 勉, 花牟禮 豊, 黒野祐一

「小児耳下腺腺房細胞癌の1例」

井内寛之, 永野広海, 黒野祐一

第16回日本抗加齢医学会総会 平成28年6月10日～12日(横浜市)

「高齢マウスにおける経鼻免疫による特異的粘膜免疫応答賦活化に関する検討」

大堀純一郎, 黒野祐一, 藤橋浩太郎

第65回日本アレルギー学会学術大会 平成28年6月17日～19日(東京都)

「オンラインシステムを用いたスギ花粉症に対する舌下免疫療法の服薬状況ならびに有害事象調査」

宮之原郁代, 牧瀬高穂, 黒野祐一

第78回耳鼻咽喉科臨床学会総会および学術講演会 平成28年6月23日～24日

「声門下にハナビル (*Dinobdella Ferox*) が寄生した内部蛭症」

西元謙吾, 吉福孝介, 松崎 勉

「診断に苦慮した青年期発症川崎病の1例」

積山幸祐, 徳永正朝, 片山宏祐, 山口浩樹, 小松真成, 黒野祐一

「声門下腫瘍が疑われた喉頭結核症例」

原田みずえ, 川畠雅樹, 黒野祐一

「局所進行頭頸部癌に対する TPS 療法の検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 松崎 勉, 花牟禮豊, 黒野祐一

「セツキシマブ併用放射線治療中に急性呼吸促迫症候群をきたした例」

永野広海, 馬越瑞夫, 地村友宏, 黒野祐一

「内頸動脈および腕頭静脈に腫瘍塞栓を形成した腎細胞癌甲状腺転移症例に対する手術経験」

馬越瑞夫, 永野広海, 牧瀬高穂, 黒野祐一

「喉頭乳頭腫の臨床的検討」

井内寛之, 黒野祐一

「経口分子標的薬が奏功した甲状腺乳頭癌 diffuse sclerosing variant の1例」

地村友宏, 永野広海, 宮下圭一, 井内寛之, 黒野祐一

第31回九州連合地方部会学術講演会 平成28年7月16日～17日 (嬉野市)

「経鼻免疫による特異的粘膜免疫応答賦活化に関する検討」

大堀純一郎, 黒野祐一, 藤橋浩太郎

「局所進行頭頸部癌に対する TPF 療法の検討」

宮下圭一, 大堀純一郎, 吉福孝介, 松崎 勉, 花牟禮 豊, 黒野祐一

第4回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会

平成28年9月2日～3日 (倉敷市)

「急性喉頭蓋炎125症例の危険因子と合併症に関する検討」

大堀純一郎, 宮下圭一, 原田みずえ, 永野広海, 牧瀬高穂, 馬越瑞夫

井内寛之, 地村友宏, 宮之原郁代, 黒野祐一

「シリコンプレートの感染による急性副鼻腔炎が原因と考えられた脳膿瘍の一例」

牧瀬高穂, 井内寛之, 黒野祐一

「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリンの関与」

井内寛之, 黒野祐一

第29回日本口腔・咽頭科学会総会ならびに学術講演会

平成28年9月8日～9日（松江市）

「即時膿瘍扁摘の有用性についての検討－待機膿瘍扁摘との比較－」

原田みずえ，馬越瑞夫，川畠雅樹，大堀純一郎，黒野祐一

「中咽頭に発生したEBウイルス感染を伴うメトトレキサート関連リンパ節増殖性疾患例」

永野広海，原田みずえ，大堀純一郎，黒野祐一

第55回日本鼻科学会総会・学術講演会 平成28年10月13日～15日（宇都宮市）

「鼻中隔に播種を来したと思われる斜台部脊索腫の一例」

牧瀬高穂，地村友宏，黒野祐一

「Poly:ICのPC経鼻免疫におけるアジュバント効果に関する検討」

地村友宏，永野広海，黒野祐一

第20回日本ワクチン学会学術集会 平成28年10月22日～23日（東京都）

「Poly:ICをアジュバントとして用いたPC経鼻免疫による免疫応答の検討」

地村友宏，永野広海，黒野祐一

第68回日本気管食道科学会総会ならびに学術講演会

平成28年11月17日～18日（東京都）

「気管切開を要した急性喉頭蓋炎症例の検討」

大堀純一郎，宮下圭一，原田みずえ，永野広海，牧瀬高穂，馬越瑞夫，井内寛之，
地村友宏，宮之原郁代，黒野祐一

「帯状疱疹ウイルスにより嚥下障害を来した2症例」

積山幸祐，黒野祐一

第45回日本免疫学会学術集会 平成28年12月5日～7日（宜野湾市）

「Nasal pFL And CpG ODN Enhances Preexisting Influenza Virus-Specific Secretary IgA Ab Responses In Aged Mice」

M.Kawabata, J.Ohori, A.Tsuruhara, G.Sugita, H.Asanuma, Y.Kurono, K.Fujihashi

第27回日本頭頸部外科学会総会並びに学術講演会 平成29年2月2日～3日（東京都）

「第一鰓裂嚢胞および瘻孔の2例」

積山幸祐，黒野祐一

「下咽頭表在癌の肉眼分類と組織深達度の比較」

宮下圭一，大堀純一郎，井内寛之，黒野祐一

「先天性完全側頸瘻の1例」

井内寛之，大堀純一郎，宮下圭一，黒野祐一

4. 国際学会発表

26th Congress of The European Rhinologic Society Stockholm, Sweden July 3-7,
2016

「Benzalkonium Chloride Enhances the Expression of Histamine H1 Receptor mRNA in nasal Epithelial Cells, Which is Reduced by Pretreatment with Mometasone Furoate」

Y.Kurono, M.Kawabata

「Sublingual immunization with phosphorylcholine reduces antigen-specific IgE levels and nasal symptoms in murine allergic rhinitis model」

T.Makise, Y.Kurono

1. 新入局員紹介

伊 東 小都子

新入局員の伊東小都子と申します。

鹿児島出身です。中学・高校は広島三育学院という全寮制の学校に通っていました。課外活動にいそしみ、遊びに遊んだ中学・高校時代を経て、2年ほど回り道をし、鹿児島大学の医学部医学科に入学しました。大学時代はバスケットボール部に所属し、卒業後は鹿児島市立病院で2年間初期研修を行い、今に至ります。手術が好きで、特に頭頸部領域に興味があります。今は右も左もわからない状況で慣れることに手いっぱいですが、教授をはじめ、先生方に丁寧に指導していただき、大変な中でも楽しく仕事をさせてもらっています。頼もしい同期もいて、恵まれた環境に感謝しています。一つずつできることを増やしていった、少しでも早く戦力になれるように努力してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

久 徳 貴 之

新入局員の久徳貴之と申します。鹿児島県私立志學館高等部を卒業後、北九州にある国立九州工業大学の工学部に入学し、電気電子工学を専攻していましたが、在学中に医学・医療への興味が大きくなり、卒業後大分大学医学部に入学しました。大学卒業後、鹿児島で研修をするために鹿児島大学医学部初期臨床プログラムへ参加いたしました。一般に内科研修が先行する傾向にある現在の研修医プログラムですが、ローテーション調整のため偶然に耳鼻咽喉科で研修医をスタートする事となりました。大分大学でご活躍されていた黒野先生のお噂は耳にしていたので、期待に満ちたスタートを切ることができ幸いでした。実際に研修させていただくと、耳鼻咽喉科領域疾患の幅広さと専門性の高さに興味が大きくなり、そして耳鼻科の先生方の雰囲気惹かれ、気が付けば研修期間の半分ほどを鹿児島大学と鹿児島医療センターの耳鼻咽喉科で研修させて頂いていました。俊敏に仕事をこなし、症例を深く検討し、担当患者に責任を持って医療を提供する先生方の姿は、いつしか自分の理想の医師像となり、入局に至りました。今後、先生方の背中を追いかけ、追いつき、そして追い越せるくらいの気概で邁進していく所存ですので、ご指導の程宜しくお願い致します。

松元隼人

【主 訴】早く1人前の耳鼻科医になりたい

【既往歴】18歳まで谷山で育つ

東京理科大学薬学部卒 公務員薬剤師歴あり 調剤薬局勤務歴あり

鹿児島大学医学部卒 初期臨床研修さくらじまプログラム修了

【家族歴】キーパーソン：妻，子3人（長男6歳，長女4歳，次女2歳）

【生活歴】鹿児島大学医学部空手道部出身 アルコール：機会飲酒，たばこ：never
最近医局で勧められ，ゴルフを始めた

【現病歴】元来小児科志望であった。2015年冬に市立病院脳外科研修した際，脳外科医になろう・・・とは思えなかったが，頭部に興味を持つようになった。2016年6月同院耳鼻科で研修し，初めて将来の選択として耳鼻科を考えるようになった。その後鹿児島大学耳鼻咽喉科医局での研修を複数回選択し，2017年4月入局となった。

【入局後経過】意気揚々と入局させて頂きましたが，思うようにいかないことも多く，反省猛省の毎日です。稀に思い通りにできたことについては，密かにすごく喜んでいます。

【今後の計画】時に厳しく，時に優しく鍛えてくださる，教授をはじめとする諸先輩方がおられ，また痛みを分かち合う同輩が2人もいるこの環境は，私にとって有難く，勿体ないものと思っています。場当たりの診療ではなく，1例1例真摯に向き合って症例を積み重ねていこうと思います。

若輩者ではございますが，今後ともよろしくお願いたします。



2. 医局人事（平成29年4月現在）

教 授 黒野祐一
講 師 大堀純一郎
助 教 原田みずえ，宮下圭一，永野広海(海外留学中)，川島雅樹，牧瀬高穂
医 員 間世田佳子，馬越瑞夫，井内寛之，地村友宏，宮本佑美
伊東小都子，久徳貴之，松元隼人

医 局 長 川島雅樹
外来医長 原田みずえ
病棟医長 牧瀬高穂

関連病院（平成29年4月現在）

鹿児島医療センター	西元謙吾，吉福孝介
国立療養所星塚敬愛園	宮之原郁代
鹿児島生協病院	積山幸祐
藤元総合病院	森園健介
あまたつクリニック	谷本洋一郎
鹿児島市立病院	高木 実

3. 学会報告

第117回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会

宮 下 圭 一

2016年5月19日～5月21日に名古屋市立大学主催で、名古屋国際会議場にて第117回日本耳鼻咽喉科学会通常総会・学術講演会に医局から6人で参加致しました（それぞれ下記タイトルです）。

- 黒野 祐一 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の将来展望（司会）
 宮之原郁代 オンラインシステムを用いた2015年スギ花粉症患者の受療動向と QOL 調査
 大堀純一郎 急性喉頭蓋炎124例の検討—扁桃周囲膿瘍合併例の対応—
 永野 広海 耳介経皮免疫によるホスホリルコリン特異的粘膜免疫応答の誘導
 宮下 圭一 孤立性蝶形骨洞疾患48例の検討
 牧瀬 高穂 両側性に発生した耳下腺腫瘍の臨床的特徴

今回は専門医領域別講習が初めて開催されるとのこともあり、いつもよりも大勢の会員が参加したことで、あちこちで長蛇の列ができ、大変な光景でした。また5月20日（金）の会員懇親会の前に「夕べのコンサート～オペラの調べ～」が開催されました。会長の村上信五先生の企画で、黒野先生のご子息でいらっしゃる黒野啓介さんを中心としたオペラコンサートが開催されました。「千の風になって」、「私のお父さん」などテノール歌手として素敵な歌声を会員みなさんに披露してくださいました。

こう言っでは失礼ですが、写真では少し太って見えます。これはテノール歌手として



声を出すために、自ら体重を増やしているのであり、まさしくプロフェッショナルとしての体形なのだということが判明しました（この後に2次会にていろいろと教えて頂きました）。2019年に日耳鼻総会を当教室で主催することになっているため、しっかり企画準備していきたいと思います。



第40回日本頭頸部癌学会 第5回アジア頭頸部癌学会

井内寛之

平成28年6月9日～10日にさいたま市で第40回日本頭頸部癌学会が開催されました。大学からは宮下先生と井内が参加しました。宮下先生は「局所進行頭頸部癌に対するTPS療法の検討」、井内は「小児耳下腺腺房細胞癌の1例」について発表しました。今回は第7回教育セミナーから参加させていただき普段聞けない統計学や抄録作成とプレゼンテーションの極意の口演もあり自身の学会発表に非常にためになるものでした。毎年ではありますが、形成外科や放射線科の先生の口演もあり、違う視野からの癌治療について参考になりました。夜はまったり鍋料理を楽しみました。

第16回日本抗加齢医学会総会

大堀純一郎

本学会は、平成28年6月10日～12日にパシフィコ横浜会議センターで開催された。当科からは、大堀が「高齢マウスにおける経鼻免疫による特異的粘膜免疫応答賦活化に関する検討」を発表した。高齢マウスにおけるインフルエンザワクチンの抗体価をアジュバントのみで上昇させるという留学中の研究を発表させていただいた。高齢マウスにおいては、免疫後の抗体価の低下までの期間が短くなるということと、低下した抗体価をCpG-ODNと plasmid FLT3L (pFL) の2つのアジュバントを用いることで再上昇させることが出来るということを発表した。アラバマで川島先生が継続している仕事の一部も発表することが出来た。抗加齢医学会に参加するのは初めてのことであったが、会場全体がアンチエイジングで盛り上がり、普段の耳鼻咽喉科関連の学会とは違う雰囲気であった。パシフィコ横浜に来たのも久しぶりであったが、会場のすぐ横にカップヌードルミュージアムが出来ており、足を延ばした。インスタントラーメンの父といわれる安藤百福のクリエイティビティーと執念を感じ、普段食べているインスタントラーメンの歴史を知るいい機会であった。安藤百福の精神は、研究者として見習うべきところが非常に多く、良い刺激になった。

第65回日本アレルギー学会学術大会

2016年6月17日～19日

東京 東京国際フォーラム

宮之原 郁 代

今大会は、「ワクワク ドキドキを伝えよう 研究の興奮を！臨床の感動を！」というテーマで開催されました。スギ花粉症に対する舌下免疫療法も2年目を迎えその結果に関する報告や、新たに保険適応となったダニアレルギー性鼻炎に対するアレルゲン免疫療法の話題がプログラムに多く生まれ、いろいろ情報収集することができました。ダニに対するアレルゲン免疫療法薬は、現在二剤承認されており、どちらをどのように選択していくかについてはなかなか具体的な情報が得られにくく悩ましいところでありましたが、臨床で実際に使用した際の両者の特色や違いなど少しずつ分かってきた印象です。その他、シンポジウム「好酸球性炎症の最新知見」では、自然免疫によって好酸球性炎症を誘導する natural helper cell (ILC2) のアレルギー性炎症を成立させる機構について新たな知見が示され興味深く聞きました。

私自身は、ミニシンポジウム「免疫療法の新展開」のセッションで、「オンラインシステムを用いたスギ花粉症に対する舌下免疫療法の服薬状況並びに有害事象調査」のタイトルで発表しました。このシステムは、地方部会の多くの先生方にも参加して頂いているものです。いつもご意見、ご協力頂きありがとうございます。この場をお借りして厚くお礼申し上げます。免疫療法を選択する患者さんが、鹿児島県でも少しずつ増えているようです。今後は、このシステムを、患者さんが直接アクセスでき、自身の疾患管理に役立てることのできるようにアップグレードしていきたいと思っています。また、参加される患者さんも増やしていきたいと思っていますので、どうぞ引き続きよろしくおねがいします。

第31回九州連合地方部会学術講演会

地 村 友 宏

今年の九州連合は佐賀大学主幹で、7月16日、17日の2日間、嬉野温泉郷にて行われました。会場と温泉宿は一体化しており、和多屋別荘という広大な館でした。恒例の貸し切りバスにて鹿児島を出発しました。今年は永野医局長の指令で野球チームの戦力強化が行われました。結果は1回戦佐賀大学戦で3-3の引き分けじゃんけん勝負とな

り、日頃、運を使い果たしている関係で、1回戦敗退となりました。試合内容としては近年では最も充実したものでありました。来年は野球だけでなくじゃんけんの練習もして臨むこととします。耳鼻科に興味があるということで参加してくれた研修医、医学部生のみなさんも楽しんでもらえたようです。夜のレセプションでは、数百人が見守る中、研修医2年目の松元隼人（はやと）先生（空手部出身）が壇上にて空手の型の演舞を披露し、拍手喝采でありました。松元先生は無事耳鼻科入局となりました！すでに2月から耳鼻科で頑張ってくれていますが、名前の隼（はやぶさ）のごとく、その仕事ぶりは目を見張るものがあり頼もしい限りです。学術講演会では大堀先生が『経鼻免疫による特異的粘膜免疫応答賦活化に関する検討』で、宮下先生が『局所進行頭頸部癌に対するTPF療法の検討』で発表されました。日当直にて大学のお留守番いただいた先生方のおかげでもあります。ありがとうございます。2017年は福岡の予定です。野球も発表も頑張らしましょう！！

第4日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会ならびに学術講演会

井内寛之

平成28年9月2日～3日に倉敷市で第4回日本耳鼻咽喉科感染症・エアロゾル学会総会・学術講演会が開催されました。大学からは黒野教授、大堀先生、牧瀬先生、井内が参加しました。黒野教授はランチョンセミナーで「重症急性上気道感染症の診療における留意点」について口演されエアロゾルシンポジウムでは「急性副鼻腔炎に対するネブライザー療法の手引き」の概要とその活用法で司会をされました。大堀先生は「急性喉頭蓋炎125症例の危険因子と合併症に関する検討」、牧瀬先生は「シリコンプレートの感染による急性副鼻腔炎が原因と考えられた脳膿瘍の一例」、井内は「肺炎球菌およびインフルエンザ菌の上皮接着におけるホスホリルコリン」で発表しました。エアロゾルシンポジウムではネブライザー療法の手引きを作られた先生方の口演があり、原理や薬剤、消毒管理など日常診療にとっても有意義な口演でした。会場が美観地区の近くであり昔ながらの街並みが残され、夜は綺麗にライトアップされ心が一段と清らかになりました。

第29回日本口腔・咽頭科学会総会・学術講演会

原 田 みずえ

H28年9月8～9日に松江にて開催された第19回日本・口腔咽頭科学会に黒野教授、大堀先生とともに参加させていただきました。

黒野教授は『扁桃に関する最近の話題』と題して、ランチョンセミナーでお話をされました。大堀先生は『経鼻粘膜ワクチンの開発』と題して、シンポジウムでお話されました。私は『即時膿瘍扁桃の有用性についての検討－待機膿瘍扁桃との比較－』と題してポスター発表させていただきました。これからも継続して、即時扁桃と待機扁桃の比較検討していこうと思います。

ちょうどその頃、ポケモンGOが日本でもできるようになり、松江城に大堀先生と行って、お堀の周りにいるポケモンを探しながら歩いて楽しかったです。

第55回日本鼻科学会総会・学術講演会

地 村 友 宏

今年の鼻科学会は、10月13日～15日に独協医大主幹で宇都宮市の栃木県総合文化センターにて開催されました。黒野教授は招待講演1（James N Palmer 先生）の司会をされました。牧瀬先生が『鼻中隔に播種を来したと思われる斜台部脊索腫の一例』、地村が『Poly:ICのPC経鼻免疫におけるアジュバント効果に関する検討』を発表しました。ワークショップは、鼻科基礎研究ハンズオンセミナー『鼻副鼻腔組織を用いた基礎研究のすすめ方』に参加し、マウス鼻粘膜の解剖や免疫染色の実習などを行い、大変勉強になりました。夜は宇都宮名物の餃子をおいしくいただきました。宇都宮には餃子店が200以上あるとのこと。来年も発表できるよう頑張りたいとおもいました。

第20回日本ワクチン学会学術集会

地 村 友 宏

今年のワクチン学会は10月22日、23日東京の京王プラザホテルで行われました。黒野教授、大堀先生、地村で参加しました。地村は『Poly:ICをアジュバントとして用いたPC経鼻免疫による免疫応答の検討』を発表しました。シンポジウムでは清野宏先生

が座長をされ粘膜ワクチン研究開発の最新の話題が提供されました。アジュバント，抗原の多種の開発や，実用化にむけての問題点などが議論されました。基礎の学会ですので難しい内容も多かったですが，大ホールは数百人がひしめきあい熱気がすごかったです。黒野教授の宿題報告に向け今後実験をすすめていくうえで，大変有意義な学会でありました。

第68回日本気管食道科学会総会・学術講演会

大 堀 純一郎

本学会は，平成28年11月17日から18日に東京の京王プラザホテルで開催された。気管食道科学会への参加は久しぶりであったが，本学会には黒野教授と大堀の2人が参加した。私は，「気管切開を要した急性喉頭蓋炎症例の検討」という演題で，当科での緊急気管切開についての検討を行い，耳鼻科外来での座位の気管切開について発表した。学会場では，外科的気道確保についての領域講習もあり，気道確保に対する注目は依然として高いのだと感じられた。また特別講演では，頭頸部ロボット手術についての話があり，今後導入されるであろうダヴィンチによる中咽頭，喉頭手術について海外の報告があった。本邦でも，ELPSやTOVSなどによる経口切除が盛んにおこなわれているが，今後ロボット手術になると，より簡単に経口切除が可能になるのではないかと期待される。

第45回日本免疫学会学術集会

川 島 雅 樹

本学会は，平成28年12月5日から7日にかけて沖縄の宜野湾市で開催されました。平成27年7月から平成28年7月まで留学していたアラバマ大学バーミングハム校（UAB）での研究結果を発表致しました。大部分の参加者が基礎研究をライフワークとされており，ディスカッションの内容はレベルが高く，なかなか理解できませんでした。しかし，耳鼻咽喉科医も数名参加しており，大変刺激を受けました。また，留学先の藤橋教授と約4カ月ぶりに再会することができ，泡盛を交わしつつ興味深いお話を伺うことができました。20℃を超える温かな風を受けつつ仰ぎ見た沖縄の空と相まって，素敵で貴重な映像ある思い出となりました。

第27日本頭頸部外科学会総会・学術講演会

井内寛之

平成29年2月2, 3日に新宿で第27回 日本頭頸部外科学会総会ならびに学術講演会が開催されました。大学からは黒野教授, 宮下先生, 積山先生, 研修医で入局予定の久徳先生, 松元先生, 井内が参加しました。黒野教授は手術手技セミナー6の内視鏡下鼻内手術 (ESS) で司会をされ, 宮下先生は「下咽頭表在癌の肉眼分類と組織深達度の比較」, 積山先生は「第一鰓裂嚢胞および瘻孔の2例」, 井内は「先天性完全側頸瘻の1例」で発表しました。今回プロヴォックス vegaTM のセミナーがあり, 鹿児島大学でも導入しなければならないと痛感しました。懇親会後は都庁からの夜景を堪能したのち, 飲み会では久徳先生は鍋をひたすら食べ続け, 松元先生は寝続けてました。

第23回 マクロライド新作用研究会

原田みずえ

H28年7月29~30日に, 東京飯田橋にて開催された第23回マクロライド新作用研究会に参加させていただきました。

ヒト中耳粘膜上皮細胞を用いた, 滲出性中耳炎に対するマクロライドの効果についての研究を継続しており, 「ヒト中耳粘膜上皮におけるサイトカイン産生およびムチンに対するマクロライドの効果」と題して, 発表させていただきました。あまり良い成果がでずに, 発表に苦労しましたが, 座長の松根先生や和歌山大学の保富教授にフォローしていただき何とか乗り切れることができました。他の先生方の発表を聞いて, 自分の実験のヒントが得られたので良かったです。帰り道, 偶然, 神楽坂で阿波踊りのお祭りがあり, 長ーい坂をずっと歩いて見ながら帰ったので, 足の親指の爪が内出血を起こしてしまいましたが, とても賑やかで楽しかったです。

4. リサーチレポート

アラバマ大学バーミングハム校 (UAB) 留学記

川 島 雅 樹

2015年7月から2016年7月の約1年間、アラバマ大学バーミングハム校 (UAB) 免疫ワクチンセンターに留学する機会を頂きました。黒野祐一教授、福岩達哉先生、大堀純一郎先生が留学されていたラボであり、脈々と続けられてきた粘膜免疫の研究に身を投じることができる喜びに満ち溢れながら渡米しました。ところが、研究生活に没入できるのは渡米後数カ月経てからでした。待ち受けていたのは、アメリカでの日常生活における文化やシステムの違いという壁でした。本稿では、その体験談をお伝えします。

渡米後、入居するアパートは幸いにもすぐに見つかったのですが、カードと小切手が主体で現金をほとんど使うことがないアメリカのシステムをよく理解せず、契約の際に使用した小切手が手違いで不渡りになってしまいました。渡米早々、高額のペナルティーを払うことになってしまいました。支払いを済ませてほったのも束の間、日本で加入していた保険がアメリカでの医療をカバーしていなことが判明。高額の保険代を払うこととなってしまいました。

入居して数週が経過した夜中2時のことでした。突然、プシュー、ザーと何やら漏れている音が……。音のする方へと歩み寄ると、Water Heater (室内に設置された湯沸かしの為の大きなタンク) から消防車の放水のごとき勢いで水が噴き出しているではありませんか。室内のカーペットは既にびしょ濡れで、足を踏みいれるとジュワァー、ジュワァーと絞り出される声のような音が耳に入ってきます。慌てて、アパートの当直に電話をするも音声案内となり、冒頭は聞き取れるけれども、後半がよく分からない。聞き取れるまで何度もかけ直し、少し落ち着いて聞いてみると、実は後半はスペイン語だったのでした。動揺の程が窺えます。このような状況でも「素敵だね！家の中で噴水が観賞できる！」といったユーモアを言えるぐらいの胆力が欲しいものです。何度も電話をかけ直していることを不信に思ったのか、当直から電話がかかってきました。開口一番“Water is leaking heavily! Disaster! Disaster!”とまくし立てました。緊急であることが伝わったようで、すぐに対応してもらいましたが、落ち着いたのは朝4時すぎでした。この件はこれで落ち着いたかのように思われたのですが、1カ月後に法外な電気代の請求書が届いたのです。どうやら、Water heater の修理が不十分で、電気が必要以上に使われていたのです。このことについては、妻がアパートの管理人と数カ月に渡る交渉の上、アパートからの返金を勝ち取りました。妻には本当に感謝しています。

その後も自動車免許を取るための手続きがうまく行かず役所に通うこと6回。毎回担当が変わり、まともに取り合ってもらえず。担当によって言う事が全く違う事も多々ありました。ようやく自動車免許を取得し、実験に没頭できるころには秋も深まっていました。それ以降もマイナートラブルに出くわすのは日常茶飯事でしたが、自分の中での受け止め方も徐々に変わり、動じなくなっていました。

いよいよ残り1カ月で帰国という時期のことでした。お隣アトランタでイチローが属するマーリンズの試合を見て、帰宅の途に就きました。インターステイト（高速道路）をお気に入りのバンド Weezer の曲を聴きながら時速80マイルで悠々と走っていた時でした。突然、衝撃とともにガラガラガラガラァーと後方から鳴り響くではありませんか。ハンドル操作に抵抗を感じます。アクセルが少し重くなります。後続車がサーと避けるように次々に追い抜いていきます。家族の顔が引きつります。車内に緊張が走ります。頭から血液がサーとひくと共に、Weezerの曲が急に遠くで聞こえるような感覚に包まれました。一呼吸



研究室にて

おいて、気を取り直すと「バーストしちゃったねえ〜。さあ、どうしようかなあ〜」という言葉が口から洩れてきました。今考えると自分でも驚くほどの落ち着き払った口調でした。数々のトラブルが私に多少の胆力を授けてくれたのかもしれない。しかし、「アメリカでパリダカ気分（笑）！サイコー！」と言えるレベルにはまだなれません。幸いにも、すぐ目前にインターステイトの降り口が見えてきたので、ガラガラ鳴り響かせながら車を進め、ガソリンスタンドに車を止めました。粉々になったタイヤを見て「どうなるの。帰れないよ。」とシクシク泣く娘達の声を背に受けつつ、「大丈夫だよ。どうにかなるよ。」と強がりながらせっせとスペアタイヤに替えて無事に難



ディズニーワールドにて

局を乗り越えました。学生時代、部活の合宿帰りにパンクし、タイヤ交換してもらうのを何気に見ていたことが、アメリカの地で役立ちました。日本ではなかなか見せられない父親らしい姿を少しは見せることができたのではと思います。しかし、アトランタの物騒な郊外のガソリンスタンドでの出来事。夜間であつたらどうなっていたことだろうと思うと冷や汗ものです。

それから帰国までの間ちょっとしたトラブルがありましたが、今こうして日本の地でこの原稿を書いています。数々のトラブルに遭遇しながらも、各場面場面を考えてみると最終的には無事に乗り越えられており、本当にツイてたなあと思います。家族皆で無事に帰国することができ、振り返ってみると全てが本当にいい思い出です。このような貴重な経験をできる留学の機会を頂いたのは、黒野祐一教授をはじめ医局の皆さん、地方部会の先生方のご支援とご理解があつてのことだと思います。また、留学を引き受けて下さったUAB 藤橋浩太郎教授のご高配あつてのことです。私の留学に関わった皆さまに感謝しています。この場をかりて御礼申し上げます。

本来であれば、留学中の研究に関することについて（これも様々なトラブルに見舞われたのですが）もっと触れるべきところでしょうが、また別の機会にとっておくこととします。

『アラバマ戦記』

Department of Pediatric Dentistry, Immunobiology
Vaccine Center, Institute of Oral Health Research
University of Alabama at Birmingham

永野 広海

黒野祐一教授、医局の先生方の御好意により川島雅樹医局長の後任として2016年9月よりアラバマ州バーミングム市にあるUAB（藤橋浩太郎教授）に留学させて頂いております。簡単に現状を報告させていただきます。

実験テーマは、新規インフルエンザワクチン関連実験と



Fig1: 月曜日：チーズバガーセット(☆☆) 約9ドル

PspA（肺炎球菌）による粘膜免疫応答関連実験の大きく2つになります。前者は、鹿児島大学（大堀純一郎講師）・国立感染症研究所との共同研究の新規ワクチン開発にむけて動物でのデータ収集を行っております。後者は、前任の和歌山医大耳鼻咽喉科の杉田玄先生の引継ぎで、肺炎球菌のすべての菌種に共通して発現している表面蛋白である PspA を用いて、各種投与経路を用いて粘膜免疫応答の誘導を調べております。

さて諸般の事情で和歌山医大耳鼻咽喉科の杉田先生と大阪市立大学小児科の鶴原先生が本年1月初旬に帰国されてからは、ラボ実験は一人で担当することになりました。マウス繁殖の管理・器具の管理等,...、逆にマイペースな私のにとっては、試薬・器具・マウスは使いたい放題、時間の制約もないことから最高の環境(?)です。最初の1-2ヵ月は実験手順の相違から中々使えるデータは出なく焦りましたが、前述の2名の先生方の懸命な引継ぎのかいあり年末頃からは比較的順調に推移し

しております。少し寂しくなったら同じフロアの若い中国人の研究者と会話して楽しんでおります。彼らはずっと一生懸命です。またもう一つの楽しみ(?)は藤橋先生とのランチです。ある週間の食事を供覧します。ハンバーガー・ポテト・チキンフライ・トーストご覧の通り茶色い食べ物ばかりです。ほとんど野菜はありません。一食あたり簡単



Fig.2

Fig.2: 火曜日：チキンフライ(☆☆) 約9.5ドル



Fig.3

Fig.3: 水曜日：謎の中華(☆☆☆) 約7ドル



Fig.4

Fig.4: 木曜日：トースト?(☆) 約9ドル

に1000kcalは超えます。胃も心も財布も鍛えられます。あまり長く書くとヒマだと思われるのでこの辺で、

最後にアタフタしているうちに夢のように時間は過ぎ去り早いもので帰国まで3か月、少しでも来年の宿題報告の力になれるよう残り少ない時間を有効に活用していきたいと思います。



Fig.5: 金曜日：ハンバーガーとチリ(☆☆) 約7ドル

2017年4月12日初春のアラバマより

5. 関連病院便り

鹿児島医療センター便り

西元謙吾

平成28年度の鹿児島医療センター耳鼻咽喉科は、スタッフ的にも変化なく例年通りの診療体制でした。鹿児島での耳鼻咽喉科臨床科学会総会では西元と久徳先生が発表し、学会運営に少しは貢献できたと思います。久徳先生はこの時発表した演題を論文にしており、医療センター内の研修医会議でも研修医の中で特筆されていました。耳鼻咽喉科の株が少し上がっていましたので久徳先生に感謝です。今年度は昨年より初期研修医で回ってくる Dr も多く、臨床指導も忙しくなりそうです。

さて、平成28年度から副鼻腔手術のナビゲーションシステムが本格稼働しています。通常の副鼻腔炎だけでなく、若年性血管線維腫などの鼻・副鼻腔腫瘍手術、上咽頭手術などでも重宝しています。これまでに培われた直視下に危険部位を推定する経験的な技術にプラスして画像でその危険ポイントを確認できるため、安全性の飛躍的な向上が実感でき、Draf 手術などドリルを使った手術では必須アイテムになっています。今後は内視鏡副鼻腔手術においてルーチン化されると考え、なるべく多くの症例に積極的に使用していこうと思います。

今年は頭頸部癌にも話題のニボルマブが適応になり、実際に患者からの問い合わせがあったり、使用する機会が出てくると予想しています。奏効率はそんなに良くないにもかかわらず、長期予後がいいことから本当に適応のある症例は限定的ではありますが存在すると考えています。以前セツキシマブが適応になった時と同様に全く新しい薬で興味はありますが、なにせ高い薬ですので使用にはいささか勇気が必要です。医療財政が苦しい昨今ですので勉強しながら嚴重に適応を吟味していくつもりです。有効なバイオマーカーや有効な症例の選別法などがはっきりしたら使いやすいのですが、しばらくは手探り状態です。

平成28年度の手術症例は、インフルエンザで病棟が閉鎖したり、手術のキャンセルが多かったせいか昨年より減少しました。しかし、悪性腫瘍の症例は右肩あがりが増えていきますので仕事が楽になった印象はありません。むしろ、進行例や合併症が多い難しい悪性症例が多く、医療資源投入やスタッフの関わりが多くなり、やはり人手不足は否めません。平成29年度も引き続きより良い医療を提供できるよう努力しますのでよろしくごお願い申し上げます。

手術件数（手術記録にあるもの）

良性疾患

口蓋扁桃摘出術（アデノイド切除術同時手術も含む）	109例
内視鏡下鼻副鼻腔手術（devi+subcon 同時手術も含む）	両側53例 片側78例
鼻副鼻腔腫瘍（内視鏡・外切開含む）	16例
鼻中隔矯正術・粘膜下鼻甲介骨切除術	22例
BOF など骨折整復手術	1例
鼓室形成術	22例
鼓膜形成術	11例
顔面神経管開放術・内耳窓閉鎖術	7例
悪性外耳道炎手術	1例
外耳道良性腫瘍手術	2例
チューブ留置術・アデノイド切除・先天性耳瘻孔など	20例
耳下腺良性腫瘍摘出術	44例
顎下腺良性摘出術・顎下腺腫瘍摘出術	12例
舌下腺良性摘出術・舌下腺腫瘍摘出術	1例
甲状腺良性腫瘍摘出術	12例
副甲状腺腫瘍摘出術	3例
頸部良性腫瘍・嚢胞摘出術	21例
深頸部膿瘍切開排膿	3例
嚥下機能手術	1例
口腔腫瘍など	21例
喉頭直達鏡手術・食道直達鏡手術	61例
その他（気管切開・リンパ節摘出術・皮弁形成術など）	30例
	551例

悪性疾患

頭頸部悪性腫瘍手術（遊離皮弁による再建術あり）	13例
喉頭全摘術	4例
口腔・咽頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	21例
喉頭悪性腫瘍手術（経口腔的）	11例
鼻副鼻腔悪性腫瘍手術	6例
頸部郭清術単独	8例
甲状腺悪性腫瘍手術	14例

耳下腺悪性腫瘍手術	14例
顎下腺悪性腫瘍手術	6例
	97例
(悪性腫瘍手術で頸部郭清を行った症例：両側17例 片側35例 合計72例)	
総症例数	648例

鹿児島市立病院便り

高 木 実

いつもお世話になっております，鹿児島市立病院耳鼻咽喉科の高木です。

紹介患者予約制導入し徐々にではありますが，紹介型病院へ移行していることを肌で感じています。紹介して頂いている先生方の協力に感謝しています。

昨年度，当院では da Vinci Xi が導入され，鹿児島でもロボット手術の時代が来たのだと痛感しました。

先日触ってみました，素晴らしい約3億円のオトナのおもちゃと感じました。

また耳鼻咽喉科領域でも保険適応になる予定があると聞き，10年後どんな耳鼻咽喉科医療を行っているのか想像するだけでワクワクしています。

さて当科では今年1月より奥田医師と交代し平原医師が赴任されました。

「奥田先生の後任で，1月より赴任となりました。もともと，地元が鹿児島ということもあり，鹿児島の耳科学について少しでもお役に立てることを目標に日々診療に取り組んでおります。まだまだ，経験不足な部分もあり皆様に迷惑をかけることもあります，花牟禮先生をはじめとした諸先輩方に助けていただきながら頑張りたいと思います。宜しく願いいたします。」

新たなメンバーで日々の日常診療を行います。

今年度も鹿児島市立病院を宜しく願いします。



藤元総合病院便り

森 園 健 介

皆様いかがお過ごしでしょうか。藤元総合病院に勤務させていただいております森園です。

当院では総合医局のほかに各診療科ごとの医局もありまして、耳鼻科医局は私一人で使わせていただいております。ただ数年来クーラーが壊れた状態にあり、近年の夏場は扇風機で暑さをしのいでおりました。

ちょうど年度末の頃、退職される先生方の医局の片付け・清掃が行われていたので、軽い気持ちでついでに耳鼻科医局のクーラーの修理ができないか相談したところ、医局の部屋を確認した事務長から「まずは部屋の清掃からしましょう！」と指導が入ってしまいました。慌てて急場しのぎの片付けに取り掛かるも時遅く、10年近い無精により魔窟と化していた医局は、清掃部隊の精鋭の突入により激しい断捨離の嵐が吹き荒れることとなりました。

おかげさまでこの原稿はワックスの効いた床に、洗濯されたカーテンのかかる清潔かつシンプルな医局で記載させていただくことができました。予定外の清掃作業に巻き込まれた清掃係、事務方の皆様に深く感謝しつつ、できるだけ長くこのきれいな環境を維持出来るよう気を付けたいと思います。

さて当院のここ1年間の変化ですが、長く不在となっていた消化器内科が4月から復活となりました。ただ内科全体としてはまだ医師不足の面があり、さらなる改善が望まれるところかと思えます。

当科としては睡眠時無呼吸症候群について、これまで行えていなかった入院での精密検査を新たに導入致しました。これまで簡易型の検査では治療適応に乗らなかった症例へのCPAP導入や、中枢性の睡眠時無呼吸症候群を持つ心不全患者へのASV治療の対応を目指していきたいと考えています。また以前から行っていたスギ花粉症患者に加えて、ダニによる通年性の鼻アレルギー患者についても舌下免疫療法による治療を開始致しました。今後はさらに症例を増やすべく患者様への周知徹底を図っていく所存です。

日々の業務におきましてはこれまでと同様に大学病院等の先生方や、近隣の御開業の先生方には御迷惑をおかけすることが多々あるかと思えますが、引き続き今後ともどうか宜しくお願い致します。

鹿児島生協病院便り

積山幸祐

2016年度も一人体制でマンパワー不足が否めませんでした。何とか大きな問題はなく外来・病棟診療を行うことができました。3月に一か月だけではありますが、初期研修医が耳鼻咽喉科診療に参加し新鮮な風を吹き込んでくれました。指導を通じて、普段何気なく行っている処置や手術を見つめなおすいい機会にもなりました。2017年も7月に研修医の受け入れを予定しています。微力ではありますが、後進の育成にも力を注ぎたいと思います。

また、忙しい日常ではありますが、安全で質の高い医療を提供していきたいと考えています。2016年度の手術室での手術症例は167例で昨年度と同等でありました（表）。手術はほとんど待ち期間なく施行できますのでご紹介ください。

	人
扁桃（含む同時施行アデノイド切除、チューブ挿入）	64
アデノイド切除（含む同時施行チューブ挿入術）	5
口蓋垂口蓋咽頭形成術	1
中咽頭腫瘍摘出術	1
口唇粘液嚢胞摘出術	1
口蓋腫瘍摘出術	1
声帯ポリープ切除術	4
声帯腫瘍摘出術	1
甲状腺腫瘍切除術	2
耳下腺腫瘍摘出術	3
耳下腺癌切除術	1
舌下腺癌摘出術	1
甲状舌管嚢胞摘出術	3
頸嚢、頸瘻摘出術	2
気管切開術（外科的）	5
気管切開術（経皮的）	2
頸部腫瘍摘出術	1
内視鏡下鼻副鼻腔手術（含む同時施行 devi.）	26
鼻中隔矯正術 + 粘膜下鼻甲介骨切除術	5
術後性上顎嚢胞手術	7
鼻腔腫瘍摘出術	1
鼓膜形成術	7
鼓室形成術	4
鼓膜チューブ挿入術	7
顔面神経減価術	1

先天性耳瘻管摘出術	7
耳茸摘出術	1
外耳道異物摘出術	1
耳介腫瘍摘出術	1
術後出血止血術（甲状腺）	1
計	167

天辰病院便り

谷 本 洋一郎

天辰病院の谷本です。天辰病院に赴任して丸9年が過ぎようとしています。

昨年から本年にかけて変化したことといえば、昨年8月から大学に近い関連病院という特性も生かされるように、急性期治療後の在宅復帰に向けて、医療やリハビリ等の支援を行うための地域包括ケア病床をオープンしました。当初は耳鼻咽喉科が急性扁桃炎、扁桃周囲膿瘍や急性喉頭蓋炎の急性期疾患の入院もあるため、急性期病床も数床は残していましたが、本年3月より全て地域包括ケア病床となっています。病院としてうまく存続していくためには、時代の流れ、医療の変化の流れに常に注意を払っていかないといけない時代のようなようです。耳鼻咽喉科は天辰病院本院の2軒隣のあまたクリニックで外来診療を行っておりますが、クリニックの左隣は長年駐車場になっていました。

もう一つ変わったことと言えば、その駐車場だった場所にお寺が昨年建ちました。当初お寺が建つ計画を聞いたときは、勝手ながらクリニックの隣にお寺はどうかという気もしていましたが、実際建ってみるとあまりお寺という感じの建物ではなく、ちょっとホッとしました。

あまり大きな変化はありませんが、これもスタッフの皆さんのおかげと感謝しています。一人勤務であり、何かと御迷惑をおかけすることもあると思いますが、引き続き何卒よろしく願い申し上げます。

XI. 関連病院

(平成29年6月現在)

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
国立病院機構 鹿児島医療センター	892-0853	鹿児島市城山町8-1 TEL:099-223-1151 FAX:099-226-9246	月・水・金 (8:30~11:00)	月・火・水 木・金
国立療養所星塚敬愛園	893-0041	鹿屋市星塚町4204 TEL:0994-49-2500 FAX:0994-49-2542	月・水 (8:30~17:00)	
鹿児島市立病院	890-8760	鹿児島市上荒田37-1 TEL:099-230-7000 FAX:099-230-7070	新患 月・水・金 再診 火・木 (8:30~11:00)	月・水・金
鹿児島生協病院	891-0141	鹿児島市谷山中央 5丁目20-20 TEL:099-267-1455 FAX:099-260-4783	月・火・木・金 (8:30~17:30) 水・土 (8:30~12:30) (新患は30分前まで)	火・水・木 の午前
今村総合病院	890-0064	鹿児島市鴨池新町11-23 TEL:099-251-2221 FAX:099-250-6181	火 (8:30~16:30)	
藤元総合病院	885-0055	都城市早鈴町17-1 TEL:0986-25-1212 FAX:0986-25-8941	月・水・木・金 (9:00~17:00) 火 (9:00~11:00)	火の午後

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
あまたつクリニック	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘4-1-6 TEL:099-264-5553 FAX:099-264-1771	月・火・木・金 (9:00~17:30) 土 (9:00~12:30)	土の午後
垂水中央病院	891-2124	垂水市錦江町1-140 TEL:0994-32-5211 FAX:0994-32-5722	金 (9:00~17:00)	
加治木温泉病院	899-5241	始良市加治木町木田4714 TEL:0995-62-0001 FAX:0995-62-3778	木 (10:00~16:30)	
種子島医療センター	891-3198	西之表市西之表7463 TEL:09972-2-0960 FAX:09972-2-1313	火 (9:00~17:30) 水 夏(14:00~17:00) 冬(14:00~16:20)	
出水郡医師会 広域医療センター	899-1611	阿久根市赤瀬川4513 TEL:0996-73-1331 FAX:0996-73-3708	火・金 (8:30~15:30)	
栗生診療所	891-4409	熊毛郡屋久島町栗生1743 TEL:09974-8-2103 FAX:09974-8-2751	隔週木曜日 (8:00~15:30)	
豊永耳鼻咽喉科医院	868-0037	人吉市南泉田町120 TEL:0996-22-2031	第2, 4土曜日 (9:00~15:00)	

病 院 名	郵便番号	住所 (TEL・FAX)	外来診療曜日	手術曜日
鹿児島厚生連病院	890-0061	鹿児島市天保山町22-25 TEL:099-252-2228 FAX:099-252-2736	火・金 (8:30~17:00)	火
公立種子島病院	891-3701	熊毛郡南種子町 中之上1700-22 TEL:0997-26-1230	隔週木曜日 (8:30~16:00)	

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
1 李 廷権 (韓国, 延世大学)	昭和60年7月1日 ～61年12月25日 平成元年6月26日 ～8月25日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-2228-3605
2 Richard T. Jackson (アメリカ, Emorty 大学)	昭和60年9月6日 ～12月5日	Emory University School of Medicine Center Laboratory of Otolaryngology 441 Woodruff Memorial Building Atlanta, Georgia 30322 U.S.A.
3 関 陽基 (韓国, ソウル大学)	昭和61年1月22日 ～2月21日	Department of Otolaryngology College of Medicine Seoul National University 28 Yoongun-Dong, Chongro - Koo Seoul 110, KOREA
4 Sumet Peeravud (タイ, ソンクラ大学)	昭和62年5月7日 ～7月11日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine, Prince of Songkla University Haadyai, Songkla Thailand
5 Khemchart Tonsakurunguang (タイ, チョラロンコン大学)	昭和62年6月25日 ～63年6月14日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Chulalongkorn University Bangkok 10500, Thailand
6 金 済霖 (中国, 中国医科大学)	昭和62年8月1日 ～10月29日	中華人民共和国 沈阳市和平区南京街五段三号 中国医科大学附属第一医院 耳鼻咽喉科学教室
7 Phanuvich Pumhirum (タイ, タイ軍医科大学)	昭和63年3月9日 ～3月31日	Department of Otolaryngology Phra Mongkutklao Hospital Bangkok 10400, Thailand
8 Phakdee Sannikorn (タイ, ラジブチ病院)	昭和63年4月5日 ～平成元年6月5日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
9 Acharee Sorasuchart (タイ, チェンマイ大学)	昭和63年 4月24日 ～ 5月15日	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Chiang Mai University Chiang Mai 50002, THAILAND
10 Cheerasook Chongkolwatana (タイ, マヒドール大学)	昭和63年 5月 9日 ～ 9月30日	Department of Otolaryngology Faculty of Medicine Siriraj Hospital Mahidol University Bangkok 7, THAILAND
11 Chul-Hee Lee (韓国, ソウル大学)	昭和63年 7月14日 ～ 8月14日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
12 金 春順 (中国, 白求恩医科大学)	平成元年 3月 6日 ～ 4月 5日 平成 2年 4月 1日 ～ 9月30日 (11月14日) 平成 4年10月26日 ～11月 3日	中国吉林省長春市南岭小街吉林工大新村18棟 5 号
13 Surat Mongkolaripong (タイ, ラジブチ病院)	平成元年 3月10日 ～10月31日	Department of Otolaryngology Rajvithi Hospital Rajvithi Road, Phayathai, Bangkok 10400 THAILAND TEL 2460052 EXT 520
14 Pierre-Marie Benezeth (フランス, グルノーブル大学)	平成元年 9月 8日 ～10月17日 平成 3年 4月 7日 ～ 4月 9日	7 Place De La Republique 26000 Valence France TEL 75-43-11-86 FAX 75-55-41-10
15 Preedee Ngaotepprutaram (タイ, マヒドール大学)	平成元年 9月14日 ～ 2年 9月13日	Department of Otolaryngology Prapokkiao Hospital Amphoe Muang, Chanthaburi 22000, THAILAND
16 Myung-Whun Sung (韓国, ソウル大学)	平成 2年 1月20日 ～ 3月19日	Department of Otolaryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
17 鄭 勝圭 (韓国, 延世大学)	平成 2年 3月 9日 ～ 3年 4月27日	Department of Otolaryngology Samsung Medical Center 50 Ilwon-dong, Kangnam-ku Seoul, 135-230 KOREA 135-230

XII. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
18 Markus Rautiainen (フィンランド, クオピオ大学)	平成 2 年12月 7 日 ～ 3 年12月21日 平成 5 年10月12日 ～10月17日	Department of Clinical Sciences(ENT) Tampere University, PL607 SF-33101 Tampere Finland
19 Dacha Noonpradej (タイ, ハジヤイ病院)	平成 3 年 4 月10日 ～ 9 月 7 日	Department of Otolaryngology Haadyai Hospital Haadyai, Songkhla, 90110 Thailand TEL 074-230800-4
20 Chehlah Muhmaddaoh (インドネシア, YARSI 医科 大学)	平成 4 年 5 月17日 ～ 5 年 5 月16日	113/18 Siroros Road T. Seteng A. Muang C. Yala (95000) Thailand FAX 66-073-221665
21 方 深毅 (台湾, 台湾大学)	平成 4 年 7 月 1 日 ～ 9 月26日	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Sheng hi Road, Tainan 70428 Taiwan, R.O.C. TEL 06-2353535 EXT 2309
22 Ic-Tae Kim (韓国, ソウル大学)	平成 5 年 8 月 3 日 ～ 9 月28日	Department of Oto ; laryngology College of Medicine, Seoul National University 28 Yeonkun-dong, Chongro-ku, Seoul, 110 KOREA
23 Joon-Heon Yoon (韓国, 延世大学)	平成 5 年 6 月 5 日 ～ 6 月 8 日 平成 6 年 1 月18日 ～ 3 月 1 日	Department of Otolaryngology Severance Hospital College of Medicine Yonsei University C.P.O. BOX 8044, Seoul, 100-680 KOREA TEL 82-2-361-5780
24 Prasit Mhakit (タイ, Pramongkutklao 大 学)	平成 6 年 3 月11日 ～ 6 月 4 日	Department of Otolaryngology Pramongkutklao College of Medicine, Thailand TEL 662-246-0066 EXT 3076, 3100
25 呂 宏光 (中国, 大連医科大学)	平成 6 年 4 月 2 日 ～ 4 月19日	中華人民共和国 大連市中山路222號 大連医科大学附属第一病院 耳鼻咽喉科学教室 〒 116011 TEL 3635963-3088
26 王 振 海	平成 5 年 1 月25日 ～平成 9 年 3 月31日	中国医科大学附属第二病院 耳鼻咽喉科

XII. 海外同門会名簿

氏 名	在 局 期 間	連 絡 先
27 Jussi Laranne (フィンランド, タンペレ市)	平成 6 年 4 月 4 日 ～ 7 年 6 月 13 日	SUKKAUAR TAAN KATU 6A8 33100 TAMPERE Finland
28 Sidagis Jorge	平成 6 年 10 月 3 日 ～ 11 年 3 月 31 日	Comp. Hab. Malvin Norte, Calle 122, N° 2152/301, Block 7, Montevideo, CP11400 U URUGUAY (South America)
29 馬 秀 嵐 (中国, 中国医科大学)	平成 8 年 1 月 25 日 ～ 8 年 12 月 30 日	中国瀋陽市和平区南京北155号 中国医科大学第一臨床学院耳鼻咽喉科 〒110001
30 歐 俊 巖	平成13年 3 月 23 日～H13. 9	Department of Otolaryngology National Cheng Kung University Hospital 138, Seng Li Rd., Tainan Taiwan TEL +886-6-2353535 FAX +886-6-2377404
31 孫 東	平成13年 4 月 2 日～H17. 3	114003 中国遼寧省鞍山市鉄来区対炉山新呉衛21-7号
32 王 旭 平	平成20年11月 1 日 ～H21年 2 月 13 日	〒210002 中国江苏省南京市白下区楊公井34棟34号 南京市楊公井病院 耳鼻咽喉科 電話番号：86-25-80864050 (office) 86-25-84542942 (home)

氏 名	最終職別	在 局 期 間
西 宜 行	研 修 生	59. 4-59. 6
河 野 正 樹	研 修 生	60. 4-60. 6 61. 1-61. 3
山 内 慎 介	研 修 生	62. 4-62. 6
四 元 俊 彦	研 修 生	63. 4-63. 6
畑 幸 宏	研 修 生	63.10-63.12
三 角 芳 文	研 修 生	63.10-63.12
吉 満 伸 幸	研 修 生	H2. 7-H2. 9
斧 淵 泰 裕	研 修 生	H2.10-H2.12
宮 原 広 典	研 修 生	H3. 1-H3. 3
黒 木 茂	研 修 生	H5. 7-H5. 9
神 野 公 宏	研 修 生	H5.10-H5.12
藤 郷 秀 樹	研 修 生	H5.10-H5.12
的 場 康 平	研 修 生	H7. 1-H7. 3
伊瀬知 敦	研 修 生	H7.10-H7.12
泊 口 哲 也	研 修 生	H8. 1-H8. 3
島 名 昭 彦	研 修 生	H8. 7-H8. 9
福 田 弘 志	研 修 生	H8.10-H8.12 H9. 4-H9. 6
安 藤 五三生	研 修 生	H9. 1-H9. 3
吉 元 英 之	研 修 生	H10.4-H10.6
肘 黒 公 博	研 修 生	H11.1-H11.3
横 山 孝 二	研 修 生	H11.4-H11.6

氏 名	最終職別	在 局 期 間
田 中 裕 之	研 修 生	H11.7-H11. 9
永 野 広 海	研 修 生	H13.6-H13.12
森 田 喜 紀	研 修 生	H15.1-H15. 3

鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 同 門 会 会 則

(総則)

第1条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室同門会と称する。

第2条 本会は鹿児島大学大学院耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室（以下教室と略す）に事務所をおく。

(目的ならびに事業)

第3条 本会の目的は会員相互の親睦を図り、学術研究ならびに社会的発展に資するにある。

第4条 本会は前条の目的を達成するため次の事業を行う。

1. 同門会総会の開催
2. 同門会誌ならびに会員名簿の発行
3. 記念事業の開催
4. その他本会の目的を達成するために必要な事業

(会則)

第5条 本会は会員を次のとおりとする。

教室に在籍又はこれと同等と認められる者。本会の趣旨に賛同し入会を希望して承認された者。

第6条 本会の運営は会費及び寄付金をもって行う。会費は年会費（開業医10,000円、勤務医4,000円）を納めるものとする。特別会員、顧問は会費を免除する。（但し70歳以上）

第7条 会費を滞納した会員は本会より連絡を受けられないことがある。

第8条 会員は希望により退会することができる。

第9条 会員であって本会ならびに教室の名誉を著しく傷つけた場合には役員会の決議を経て会長がこの者を除名することができる。

(役員)

第10条 本会には次の役員をおく。会長1名、副会長、理事、監事、幹事それぞれ若干名。

なお本会に名誉会長ならびに顧問をおくことができる。役員任期は3年とする。

第11条 会長は教室主任教授又は同門会会員から選び、会務を統轄する。

第12条 役員改選時、(旧)役員会は(新)会長候補を決定し、総会での承認を経て

新会長が選出される

- 第13条 副会長は会員の中から会長がこれを委嘱し、会長を補佐する。
- 第14条 理事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務を審議する。
- 第15条 監事は役員会においてこれを選出し、会長がこれを委嘱する。
監事は会計を監査する。
- 第16条 幹事は会員の中から会長がこれを委嘱し、会務処理に当たるものとする。
- 第17条 名誉会長ならびに顧問は会員の総意に基づき推挙されるものとする。
(会議)
- 第18条 総会は年1回開催する。必要があれば会長は臨時総会を招集し得る。
総会における決議は出席会員の過半数をもってする。
- 第19条 役員会は会長が招集し、事業計画、経理その他重要な事項を審議する。
(会則の変更)
- 第20条 本会の会則は総会の承認を得て、変更することができる。
(本会則は平成22年1月17日より施行する。)

●●●●●●●●●● 編 集 後 記 ●●●●●●●●●●

“3”は不思議な数です。「三種の神器」「御三家」「三位一体」毛利元就が結束の重要性を説いた「三矢の教え」、諸葛亮孔明が劉備玄德に進言した「天下三分の計」など“3”に纏わる言葉を数え上げたらきりがありません。野球ファンの方なら、「長嶋茂雄の背番号3」を思い浮かべるかもしれません。“3”に不思議と安定感を覚えるのは私だけではないかと思えます。身近なところでは、椅子は三脚が最も安定するそうです。平らな床であれば四脚の椅子の方が安定しますが、凸凹のある不安定な場では3点で平面を決定する三脚が最も安定するそうです。

プレゼンの神様と言われたスティーブ・ジョブズ氏。“Stay Hungry, Stay Foolish”で有名なスタンフォード大学でのスピーチにおいて、氏は「お伝えしたいのは私の人生に基づく3つのお話です。それだけです。たった3つのお話です」という言葉で冒頭を飾っています。3つのお話で世界中の人々の心を打つ伝説のスピーチとなりました。その一つ目のお話で“Connecting the dots”と題し、点と点が将来何らかの形でつながると信じようと伝えています。一つ一つの事象に一喜一憂することなく、物事を長期的・多面的・根本的に考え、捉えていくこととも言えると思えます。

現在、当教室は果たすべき大きな課題をいくつか抱えています。何年かあるいは何十年先になるかもしれませんが、振り返ってみた時に点と点がつながっていることを信じながら、黒野教授を筆頭に教室員全員が一丸となって、課題に取り組んでまいりたいと思えます。忙中、心を亡くすことなく励ましあって切磋琢磨していけたらと思えます。奇しくも今年、3人の新しい先生が当教室の仲間として加わってくれました。既に、サンシャインのごとく教室をあまねく照らしてくれています。不安定な状況でこそ、3人で三脚のような安定感をもって活躍してくれることを期待しています。同門会および地方部会の先生方におきましては、昨年の第78回日本耳鼻咽喉科臨床学会において多大なるご支援を頂き、大変感謝しております。今後ともご支援のほど何卒よろしくお願い致します。

(文責：川島雅樹)

平成29年6月吉日

編集長 (医局長) 川島 雅樹

編集委員 地村 友宏

宮下 圭一

大夫堀昌子

さくらじま 第31号

平成29年7月11日 印刷

平成29年7月18日 発行

発行 鹿児島大学大学院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室
電話 (099) 275-5410

印刷 斯文堂株式会社
電話 (099) 268-8211